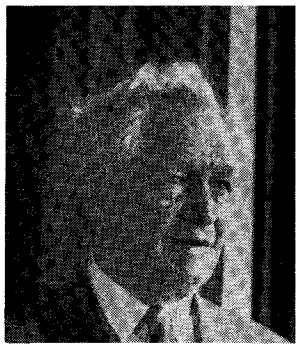
聖徒の道

1973 3

聖徒の道 1973年3月20日発行（毎月1回20日発行）
昭和23年3月16日郵便物第三種認可



心の糧

デビド・O・マッケイ

神の権能を通して与えられる神権を持つことは人間最大の賜であり，その価値はこの上なく大きい。神権の本質は永遠である。神を代表する責任を認識する者は，大いなる祝福を受ける。権能を持つ者はあらゆる状況の下，すべての言葉と行ないにおいて責任感を持たなくてはならない。聖なる神権の保有者は，だれひとりその妻を不敬に扱ってはならない。神権者はひとりといえども，食物の祝福を求め，妻子と共にひざまずき，主の導きを願うことを怠ってはならない。家庭は人が神権を持ち神権を敬うときに変わる。私たちは神権を独裁的に用いてはならない。主がこう言われたからである。「……もし己が罪を蔽いかくさんとし，われらの高慢，空しき野望を充たさんと企て，または幾分にても正しからざることによりて人の子らを支配し，統御し，強制せんとする時は見よ諸天は退き去り，主の『みたま』悲しむ。主の『みたま』退き去らば，神権またはその人の権威は終りなり。」（教義と聖約121：37）主が予言者ジョセフ・スミスに与えられたこの啓示は，教育，心理，統治に関してこれまでに与えられたうちで最も美しい教えに数えられている。私たちは教義と聖約121章のこの言葉を，繰り返し読むべきである。

私たちは，キリストにおける兄弟たち，この世で最も大いなる兄弟たちの一員であることを認識し，一日一刻神権の標準を保とうと最善を尽くそうではないか。

正直で誠実な生活をしよう。自分に正直に，兄弟たちに正直に，家族に，交わる人に正直に，常に正直であろう。なぜなら目は私たちに注がれており，全人格の基礎は正直と誠実の原則の上に置かれているからである。

神が導いておられるこの教会に忠実でありなさい。あなたの家族に誠実でありなさい。

子供たちを守りなさい。独善ではなく，父親，愛ある母親のやさしい模範によって子供を導きなさい。自分の持つ神権を家庭や自分の生活で行使し，そうすることにより教会を強める力となるよう，イエス・キリストの御名により祈るものである。アーメン。

もくじ

今月の聖徒の道……97
神権の強さ……ハロルド・B・リー……98
神権——王の軍……N・エルドン・タナー… 101
神権の契約……マリオン・G・ロムニー… 103
神権——その権能と力……A・セオドア・タトル… 105
神権者の責任……ウィルフォード・ウッドラフ… 108
永遠の鍵と管理する権能……
ジョセフ・フィールディング・スミス… 114
アロン神権はどうか…… 115
質疑応答…… 116
すばらしい町……ドロレス・アバロス… 117
これはなんでしょう…… 120
マリヤのおはなばたけ……ジュディ・ケイプナー… 121
モーセの世話をしたミリアム…メアリー・L・ラスク… 122
ワライハイエナ……G・N・ランズダウン… 124
滅び去った民族の記念碑……ポール・チーズマン… 125
契約を守る者……メアリー・プラット・パリッシュ… 128
家庭の族長制度……ブレント・A・バーロウ… 132
ジョージ・アルバート・スミス
……アーサー・R・バセット… 137

今月の表紙

今月の表紙は，予言者ジョセフ・スミスによる末日聖徒イエス・キリスト教会設立を描いたものである。教会は，1830年4月6日，アメリカのニューヨーク州，フェイヤットで組織された。作者はジョン・フォルターで，原画はミズーリ州インデペンデンスの教会訪問者センターに飾られている。

末日聖徒イエス・キリスト教会幹部

大管長会

大管長
ハロルド・B・リー
第一副管長
N・エルドン・タナー
第二副管長
マリオン・G・ロムニー

大祝福師

エルドレッド・G・スミス

十二使徒評議員会

スペンサー・W・キンボール
エズラ・タフト・ベンソン
マーク・E・ピーターセン
デルバート・L・スティプレー
リグランド・リチャーズ
ヒュー・B・ブラウン
ハワード・W・ハンター
ゴードン・B・ヒンクレー
トーマス・S・モンソン
ボイド・K・パッカー
マービン・J・アシュトン
ブルース・R・マッコンキー

十二使徒評議員会補助

アルマ・ソニ
エルレイ・L・クリスチャンセン
スターリング・W・シル
ヘンリー・D・テイラー
アルビン・R・ダイヤー
フランクリン・D・リチャーズ
セオドア・M・バートン
バーナード・P・ブロックバンク
ジェームス・A・カリモア
マリオン・D・ハンクス
ジョセフ・アンダーソン
デビド・B・ハイト
ウィリアム・H・ベネット
ジョン・H・バンデンバーグ
ロバート・L・シンプソン
O・レスリー・ストーン
ジェームス・E・ファウスト
L・トム・ペリー

七十人最高評議員会

S・デルワース・ヤング
ミルトン・R・ハンター
A・セオドア・タトル
ポール・H・ダン
ハートマン・レクター，Jr.
ロレン・C・ダン
レックス・D・ピネガー

管理監督会

ビクター・L・ブラウン
H・バーク・ピーターソン
ボーン・J・フェザーストーン

ステーキ部・伝道本部住所

東京ステーキ部 〒107 東京都港区北青山3の6の9
TEL (03—407—2465)

大阪ステーキ部 〒560 大阪府豊中市岡町1の2の3
TEL (068—52—3734)

日本東伝道本部 〒063 札幌市中央区北2条西24の245
TEL (011—611—3697)

日本伝道本部 〒106 東京都港区南麻布5の8の10
TEL (03—442—7438)

日本中央伝道本部 〒657 神戸市灘区篠原本町4の6の28
TEL (078—88—2712-3)

日本西部伝道本部 〒810 福岡市中央区平尾浄水町46
TEL (092—52—6084)

今月の聖徒の道

今月号では，神権が特に強調されている。この非常に重要なテーマに関する近代の予言者たちの説教を掲載できるのは喜びである。教会のすべての会員には，男性であれ女性であれ，できる限り神権とその権能について学ぶことの必要性を理解していただきたいと願っている。

妻たる者は，夫が神権の召しを果たすときに支持し，励ますことができるよう，神権について学ぶべきである。

将来結婚したいと願っている女性は，ふさわしい神権者の特質を学ぶべきであり，これによって，将来の夫に何を期待するかを知るのである。神権についての研究や家庭において神権を支持することにどんな意味があるのかを知ることは，結婚の準備の大切な一段階と考えられる。

すべての女性は，神権指導者たちをさらによく支持し助けまたそれによって一層大きな祝福を得ることができるよう，神権の役割，力，秩序等について可能な限り学ぶべきである。

もちろん，神権者や将来神権者となるべき人が，神権についてできる限り学ぶべきであることは言うまでもない。

ロレンゾ・スノー大管長はこう語った。「神権こそ，人に風格，名声，知恵，力そして権威を与えるものであり，この地上においては，人の子らのうちに己れを築き上げ，天上においては，限りなき永遠を通じて人を昇栄に導き，平安と幸福を与え，王座と支配の権能とを与えるものである。」

聖徒の道 3月号

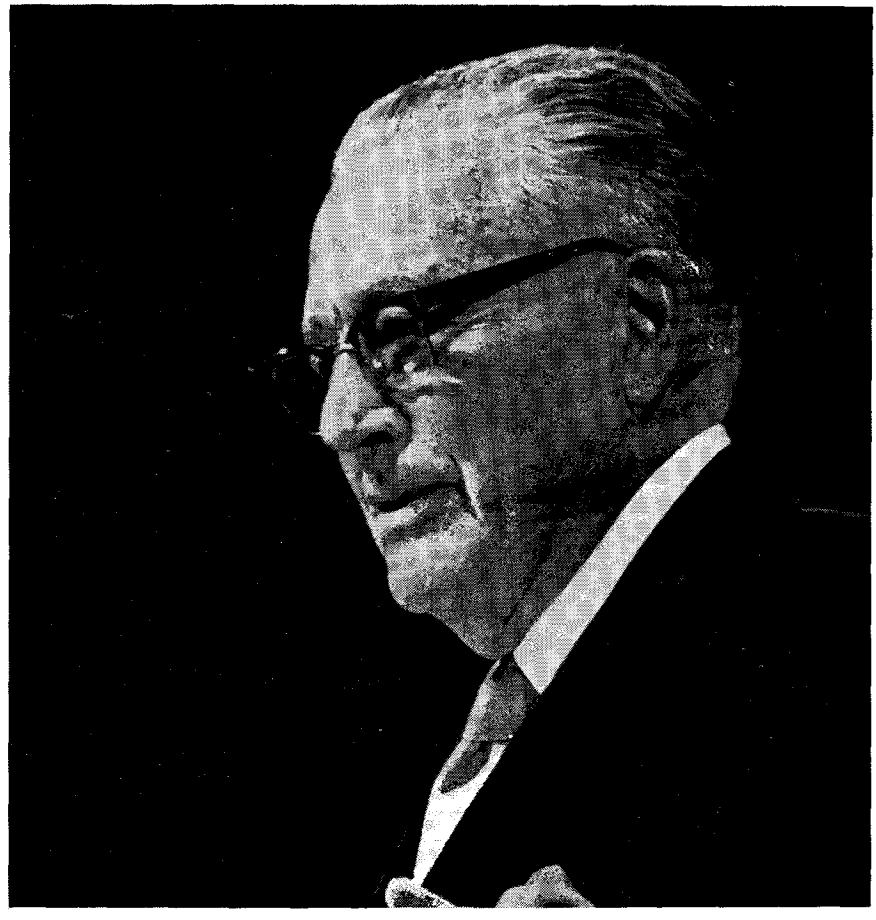
発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
東京ディストリビューション・センター
東京都港区南麻布5—8—10

定価 年間予約 1,300円 1部 130円

神　権　の　強　さ

——奉仕，フェローシップ，従順，そして誘惑に抗することについて，神権者に与える勧告——

大管長　ハロルド・B・リー



これまでのお話を聞いて私はひとつの経験をここで話したいと感じている。今宵，この大会に聞き入っている人々は数多いと思うが，特にひとりの人はこのことをありありと思い出すことであろう——それは何年か前のアジアでのできごとである。この話の一部に特に注目していただきたい。若いときの誤ちが将来，神の王国で奉仕できる機会をいかにそこなうかを知って欲しいのである。

軍人会員と集会を持っていたときのことである。ひとりの青年が最初に話をするよう指名された。この青年は，主が弟子のために祈られた主の祈りをテキストに，話をすすめた。「わたしがお願いするのは，彼ら(私の弟子たち)を世から取り去ることではなく，彼らを悪しき者から守って下さることであります。」（ヨハネ17：15)そして，この若者は貞節についていまだ聞いたことのない程すばらしい話をした。彼はこう言って話を終わった。「純潔を失うよりは，死んで，棺に入れられて，故国に送られる方がよいと思います。」

軍人ばかりの聴衆の間には，水を打ったような沈黙があった。それから証を述べて，演壇から降りようとすると彼はつまずいて倒れ，演壇の上にうずくまった。私たちは彼を演壇からおろし，生気を取り戻すまで介抱して，席に連れて行った。

彼を連れて行くとき，伝道部長は，「心臓が悪いんじゃないでしょうか」と言った。私は答えた。「彼が話している間中，私は彼の内に敵対するものがあるのを感じていました」

私に話す番が来たとき，私はその青年に言った。「君は私たちに非常に深い感銘を与えてくれた。君は純潔を失うよりは死んだ方がいいと言ったね。だが私たちが聞いたことは悪魔も聞いたということも忘れないようにしなさい。私の推測がはずれていなければ，悪魔は，純潔を失うくらいなら生命を

捨てると言った君の言葉を試そうとしているからね。十分警戒しなさい。」

集会が終わると，グループリーダーが私にそっと言った。「あなたの言葉はほぼ核心をついていました。というのは，この空軍基地は，部下を陥れようとする売春婦が一杯はびこっている腐敗しきった町です。私たちは，部下がその魔手にかからないよう留意してきました。ところがこの青年は，そんな娼婦の所へ遊びに行く約束をしてしまったのです。私たちは彼が出かける前にそれを知りました。それで言いました。『私たちは君をそこに行かせるわけにはいかない。君のおかあさんのことを考えてみなさい。君の恋人や妹たちのことを考えてみなさい。これから君と一緒に行って，何とか丁寧にその約束を断わることにしよう。』」

彼らは実際にそうした。そしてその青年を2週間よく見守ることにした。彼らはその青年にワード・ティーチング，つまり今で言うホーム・ティーチングの責任を与えた。これは基地内のすべての不活発会員を訪問することであった。そして2週間後，この青年に貞節に関して話す割当てを与えたのである。

それから何年かたった。私はマッケイ大管長と共にロサンゼルス神殿の献堂式に参列していた。集会の合間に，私は新鮮な空気を吸いに外に出た。私が神殿の西側を歩いていたとき，ちょっと小高い所に，見覚えのある青年が立っているのが見えた。その青年に近づいて行くと，彼は私に気がついて，階段を走って降りてくると，私にとびつくようにして言った。「リー長老，私はロサンゼルス神殿で働くよう召されたんですよ。」

私は胸につまるものを覚えた。私が彼に会ったのは，一歩踏み誤れば，ロサンゼルス神殿で働く権利を失ったかも知れないそんな岐路に立っていたときだったからである。

さらに何年かたって，私は彼の住む地方の大会に出席した。若い夫婦が通路を歩いて来るのが見えた。男の人はその腕に無垢な幼な児を抱き，そして美しい女性が彼に寄り添っていた。妻だと紹介してくれた。その幼な児の顔を見せてくれたとき，その青年の顔に漂う誇りがうかがえた。若い父親となったこの青年は，その幼な児に汚れのない純粋な血が流れていることを知っていたからである。これこそ，試練を耐え抜いてきた者に与えられる報いである。

私たちが若い人々を教える際，留意しなければならないことのひとつは，思いもよらないときに来る誘惑にいかに対処すればよいかを教えることである。兵役に赴こうとする青年たちに教えるときには，実際に経験のある人に来てもらって，「じゃ，こういう誘惑にあったら，どうしますか。どう対処しますか」等と言ってもらうことである。そうすれば，自分ならどう対処するかを話し合うことができる。この邪悪な時代に，これは何と大切なことであろうか。

第一に責任があるのは，その子供の父親である。こうは言っても，父親はある朝起きて，息子を枕もとに呼び，15分間で人生のあらゆることを話せというのではない。子供たちはこんなことを必要としているのではない。子供は，微妙な問題について尋ねたいと思うときに答えてくれる父親を必要としているのである。子供というものは知識に飢えており，あらゆる物事に好奇心を持っている。

もし父親が，飾り気なく，正直で，子供の成長に応じてその知恵の限りを尽くして話してあげたら，その父親は子供が成長したときに相談したいと思うような父となるであろう。そのような父親は，子供の霊にとって錨であり，彼の人生経験の書から，子供が予想もしないときに襲ってくる運命の魔手に陥らないよう，対処方法を教えることであろう。

もうひとつのことをお話したい。私たちは，家庭の夕べのような活動やその他神殿結婚，ホーム・ティーチング等の諸活動について研究して，単に警告したり，家庭の夕べやホーム・ティーチングをするよう圧力をかけようとしたりしても，決して事態は進展しないことがわかった。ホーム・ティーチングを行い，家庭の夕べを持ち，聖餐会の出席数を増加させ，神殿結婚や神殿の参入を増加させるための唯一の方法は，確固として，神権者が家庭でその神権の召しを全力を尽くして遂行することにあるとわかってきている。神権者が，自分に与えられている全能の神の力，すなわち神の神権の重要性を理解するまでは，その家庭は確固たるものとはなりえない。

私たちが強調しなければならないこ

とは，父親はすべてその家族の永遠の福祉に責任があるということである。これはつまり，家族と共に教会に集うことであり，家族と共に聖餐会に出席することであり，家族のきずなを強めるために家庭の夕べを開くことである。また家族を神殿に連れて行くべく，自分が備えをすることであり，それによって永遠の家族の結びつきをつくる歩みを進めるのである。

神権者が，主の命じられた通り生活し，仕事をすることにより，いかにその神権の召しを全力を尽くして遂行すればよいかを心に留めておくことは，高度の責任である。

私は多くの教会員が霊的な自殺を企てていることを知っている。肉体的な自殺を企てている人々と同様，彼らも助けを求めている。そうした苦痛の声は，私たちが気づきさえすれば，命を救いうる声なのである。

今日，私たちの周囲には，霊的な自殺の危機にあるがゆえに，しるし，つまり苦痛の叫びをあげようとしている人々がいる。そしてもし折に触れてその苦痛の叫びに気づきさえすれば，私たちは魂を救う手だてとなりうるのである。

今，私たちはあらゆる所に住む人々に兄弟愛の手を拡げ，真に改宗している人々に，教会に加入したいと思っている人々に，またそこで見いだせる数多くの豊かな祝福を受けたいと願っている人々に，この手を差し伸べなければならない。まだ神権を持っていない人々のためには，イエス・キリストの祝福ができる限り完全な形で与えられるよう，私たちは祈っている。一方，教会員に申し上げたいことは，主イエス・キリストの模範に誠心誠意ならっていただきたいということである。主は互いに愛し合うべきであるという新しい戒めを与えられた。それを忘れることのないよう願っている。

最後にもうひとつ述べたい。私は，今晩のスミス大管長のお話に別の意味で感動した。私の学んだことが確かに真実であると言った人がある。十二使徒評議員会の一員として名を連らねるようになって間もない頃，私が参加を許された最初の教会再組織の場面は，グラント大管長の逝去の折であった。私たちは神殿に集って長い討議をした。これは，票決によって教会の大管長選任が決定する前にはいつもとられる措置である。そのとき，私は，だれが副管長になって，だれがならないかなどといううわさがあったことを考えていた。そうした再組織には，つきもののうわさである。しかし，大管長が副管長を指名し，彼らが部屋の上座についたとき，私は心中，彼らこそ主が教会の大管長会に必要とされる人々であるとの確信をもった。私の耳もとで真理が高らかに歌いあげられたかのようにその確信が感じられた。

私は，次のことを皆様に強調したい。だれか次のように言った人があるが，これは正に真実である。「人は神の力が教会の指導者の上に留まるのを見て，それが胸の中で炎のように燃えるようになるまで，真実の意味で改宗したとは言えない。」教会員は，自分たちが正しく導かれているという確信を得，神の人である幹部の兄弟たちが霊感を受け，神の御手によって正しく任命されているという確信を得てはじめて，真実の意味での改宗をするのである。

それゆえ私は証する。私が前述のときに知ったように，今，主が選ばれた人々は，主が特別なときに必要とされる人々であるということを，私は全身全霊をかけて知っている。私は，十二使徒会の会員であったオルソン・F・ホイットニー長老[1]がこの説教壇から述べるのを聞いたことがある。彼の信ずるところはこうである。大管長会を構成する兄弟たちは，必ずしも教会で一番よい人々ではない。それどころか彼らと同じようにいやそれ以上に義しく生活している人々はたくさんいる。しかし，ひとつのことだけは確かである。それは，空席ができ，主がある人を必要とするとき，主は，目を転じ，そのときにその地位を埋めるに一番ふさわしい人を見つけ出されるということである。

私は，31年という期間，教会幹部の地位にあって，このことが真実であるとよく知っている。私は，主がこの教会を導いておられると証する。日々，絶えず，この教会の評議会に神の導きがあることを感じている。この証を，へりくだって主イエス・キリストの御名によって申し上げる。アーメン。

1．オルソン・ファーガソン・ホイットニー（1855—1931）ソルトレーク市に生まれ，1906年4月9日使徒に聖任された。

神　　権

王　の　軍

——なぜ神権者は誘惑に打ち勝ち，神権に誇りをもつ必要があるのか——

第一副管長

N・エルドン・タナー

教会中のそこかしこに集う神権者の大きな群れに心を向けるとき，讃美歌「見よ，王の軍は」を鑑賞する意味を一層深くするものがある。私たちはこの地上で，神の聖なる神権，すなわち神の御名によって語り行なう権能を有する唯一の民である。私たちが自らを訓練し，その神権の召しを全力を尽くして遂行するならば，善にとって何と驚異的な力となることであろうか。何たる特権，何たる責任であろうか。

父親として息子として，また神権者として，私たちは常に謙遜で誇り高くまた保持する神権を決して恥とするようなことがあってはならない。私たちは他とは違う特異な民であり，真理と義のゆえに，他と異なっていなければならないのである。決して「他人より聖い」という態度を取れというのではないが，常に教会の標準を守って生活し迷うことのないように。

ある人は名声の失墜を恐れ，嘲笑を恐れるかも知れない。世の人のようになろうと努めたり，世の罪深い要求を満たそうと努めたりする必要のないことは言うまでもない。世にあっても，世のものとなることのないように。私の経験から何の疑いもなく申し上げたいことは，人は決して保持する神権を恥じる必要はないし，その教えに従って生活したり，神権の召しを全力を尽くして遂行することを恥じる必要もないということである。

私が，つい昨日，ごく近の非常に成功した実業家と話をしていたときのことである。彼は，この教会で献身的に働く会員であり，その神権の召しを全力を尽くして遂行している人物である。私は，「あなたは自分の人生で神権が自分にとって損になったことがありますか」と尋ねてみた。

彼の答えは「タナー副管長，それは常に益の方に働いてきました」であった。

ある人々は，今日，教会の青少年，ひいては一部の監督，ステーキ部長の考え方にも影響を及ぼしている世界的放縦の傾向をもってすれば，私たちが余りにも厳しく道徳を教えすぎているという。実際私たちは堅物と受けとられている。だが私に言わせれば，それは，自分を人よりも徳高く，知恵のすぐれた者だと自負する心の狭い人間のことである。世の方法で判断すれば，恐らく私たちは堅物であろう。

私たちは信仰を失い，近代の啓示を否定し，生活態度を世の人と同じ様なものにしようとしているのだろうか。それとも私たちは特異な民であり神権を尊び，その義務を全力を尽くして遂行しようとしているのだろうか。

私たちは世と違っている。私たちには啓示された福音があり，神権がある。私たちはどのような場合でも，模範とならなければならない。

それともイザヤの言う「しかし，役人たちの中にも，イエスを信じた者が多かったが，パリサイ人をはばかって告白はしなかった。会堂から追い出されるのを恐れていたのである。

彼らは神のほまれよりも，人のほまれを好んだからである（ヨハネ12：42—43)」という人々の中に数えられようとしているのだろうか。

今晩，私の話に耳を傾けているすべての青年に申し上げたい。（効あることなら，私は神権をもつすべての青年とひとりびとり話したいのだが。）

私たちはイエス・キリストの福音を恥とする必要はない。むしろ私たちの持つ神権を絶えずへりくだって誇りとすべきである。

私は，翌月バプテスマを受けようとしていたひとりの青年と話をする機会があった。彼は家族の中でただひとりバプテスマを受けるのであった。私は彼に尋ねてみた。「何が原因で教会に興味を持ったのですか。」

彼は答えてくれた。「私が学校でつき合っていた青年が，この教会の会員でした。彼の生活方法が私の関心を引き起こしました。彼は他の少年とは違っていました。幸福そうでした。彼は私を家に招いてくれました。その家庭にあふれる愛を見，その家族がどのように生活しているかを知ったとき，もっと興味が湧きました。彼は教会へ連

れて行ってくれました。そこでバスケットボールのチームに入りました。私は，この教会には他のどことも違う感じのあるのに気づきました。そのチームメイトたちは皆，知恵の言葉を守り善良で清い生活をしていました。そのことが私の心を動かしました。そして教会に入る決心をしたのです。」

青年はさらに続けた。「その友人とブリガム・ヤング大学へ来て，一学期出席してみました。この大学の人々と接触してみたかったのです。そして，ここにいる大部分の若い人々は，信念通りの生活をしているのがわかりました。でも私が他の幾人かの人に会う前にこの教会の会員になる決心をしておかなかったら，どんな結果になったかはわかりません。」

青年たちよ，どこにいようとこのことを心に留めておくべきだと思う。あなた方の行動が，人々を教会から遠ざけているかも知れないのだ。だれもそんなことをしてうれしい気持にはなれまい。

つい先日，私はある青年の父親と話をする機会があった。その方は，弁護士としての地位を受けて，ソルトレーク市を去ってニューヨーク市へ行くところであった。その方を招いた組織は我が国でも有数のものであり，その会長が，東部で大会社の副社長をしている我が教会の会員を知っていたのである。その会社の社長は，副社長が教会員であることを知っていて，だれか推薦できる人物を知っているかどうか尋ねた。その社長が言った。「君の教会の青年のように生活している人物が欲しいんだよ。酒も飲まず，仕事熱心で信頼に足る，そんな人物が欲しいんだ。」

他の人々を非難するわけではないが信念通りに生きたいと願う教会の青年たちに勧めたい言葉である。それは，生涯で常に益となろう。

そこで，この副社長は答えた。「ソルトレーク市にいるひとりの青年を知っています。」その会社では，その青年に旅費を払ってニューヨークに招き，面接し，仕事を与え，帰りの旅費を払い，また彼の妻にもニューヨークへ来るために旅費を払い，住む場所も見つけてくれたのである。

あなた方青年に，信念通りに生きることの大切さを強調しすぎることはないと思う。あなた方の益のため，成功のため，幸福のため，そして諸君の交わる少年たちへの影響のためにも。彼らは，諸君が公言していることをしてくれるよう，またそういう人であるよう望んでいる。もしそうしないなら，諸君は彼らを意気消沈させることになり，神権を持っていない他の少年が彼らの人生に影響を与える機会を持つことになるだろう。

先日，私が感銘を受けたことをお話ししよう。アメリカ青年会議所の会頭御夫妻が，他の二組の御夫妻と一緒に私のオフィスに来られた折のことである。彼らは教会の会員である会議所の地区会員の紹介で一緒に公式訪問に来て下さったのである。世界情勢や，青年会議所の会頭であるこの青年の責任などについて話した後，私は言った。「教会についてお知りになりたいと思いますか。」

彼は，「ええ，そう思います」と言った。

それから私は，その方たちを紹介した青年に向かって言った。「君から，この方たちに教会について話してくれないかね。」

彼は言った。「タナー副管長，私は副管長がお話し下さると思っていました。」

私は言った。「いや，君から話してくれたまえ。」

彼はその若い会頭をじっと見つめて言った。「モルモン経について少しお話ししたいと思います。私たちはそれを信じていますし，神の言葉であることを知っています。」

モルモン経とは何か，予言者がどうやって手に入れたか，どのように翻訳されたか等，彼は説明した。こういった説明をした後，彼は言った。「私はこれが真実であることを知っていると申し上げたい。そして，今日ここにおられる方々に証します。その本は真実です。神の言葉です。その本の中にあるひとつの約束についてお話ししたいと思います。」その約束を諸君は知っていると思う。

それから彼は言った。「その本を1冊欲しいと思いますか。」

するとその会頭は言った。「もちろんですとも。興味がありますよ。」

その証を述べた青年は，リチャード・モイルである。

青年たちよ，どこにいようと，だれといようと，私たちが神の子であることを忘れないようにしよう。私たちは神の神権を持っており，その教えに従って生活する責任があるのである。

今宵，私は，この福音が真実であることを知っていると証したい。それが真実であることを，私が世のできごとを知っていると同じように，私は知っている。私は知っている。神の生きたもうことを，イエスがキリストであり神の御子であることを，御二方がジョセフ・スミスに現われたことを，福音が回復され，教会がこの地上に再建されたことを。

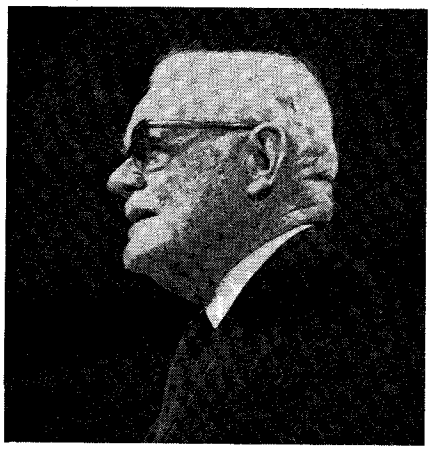
福音の証を持っていない青年諸君に申し上げたい。今宵，指導者の述べた確信に満ちた証を受け入れなさい。そして同時に，祈り，勉強し，戒めを守りなさい。そうすれば，諸君は自らの手で証を得ることができるであろう。それは人の享受しうる最大の祝福なのである。

「永遠の命とは，唯一の，まことの神でいますあなたと，また，あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることであります。」（ヨハネ伝17：3）

神権を尊び，そのもたらす祝福にあずかり，人に不死不滅と永遠の生命をもたらすべく私たちに課せられた働きをなすことができるよう，イエス・キリストの御名により，へりくだって祈り奉る。アーメン。

神　権　の　契　約

――神権者よ，天よりの召しを全力を尽くして遂行せよ――



第二副管長
マリオン・G・ロムニー

兄弟たちよ，これは偉大な機会である。何万という聖なる神権者が一堂に会し，教会の最高幹部の指導に接することができるのである。

私は大管長の話に非常に感動した。大管長が御自身の経験を話されたのを嬉しく思っている。大管長の説教の最中，私は四半世紀前のひとつのできごとを思い出した。ヒーバー・J・グラント大管長のことである。そのとき私たちは，大管長が公けの立場でとった行動に対して向けられたある批判について話し合っていた。大管長は，腕を私の背中に回し，私の左肩に手をかけると，こう言われた。「マリオン，君は，教会の大管長からいつも目を離さないでいるね。もし大管長が君に何か間違ったことをするように命じて，君がそれを行なったとしても，主はその点で君を祝福して下さるだろう。」

そして，こう言われた。「だが心配することはないよ。主は，決して御自分の代弁者が民を誤って導くのをそのまま見ておられることはないからね。」

私はこの助言を決して忘れたことがない。また，今までずっとこの勧告を忠実に守ってきたつもりである。

この集会に集う私たち兄弟は皆，神権を保持している。私たちは契約の民である。主は，アブラハムと契約を結ばれた後，アブラハムに子孫の繁栄を約束された。

「……また汝のすえ……によりて世界の眷族ことごとく祝福を得ん，すなわち福音の祝福にして救いの祝福，すなわち永遠の生命の祝福を得んと言う約束を汝に与うればなり。」（アブラハム２：11）

アブラハムの時代以来その子孫は，福音を知った人々には契約の子と呼ばれている。私たちが主と契約関係に入って，結ぶもののひとつは「神権に属ける」契約である。教義と聖約の第84章は神権に関するものである。そこには次のようにある。

「モーセの息子らとまたアロンの息子ら（つまり，メルケゼデク神権者とアロン神権者）とは，今の代に主の宮居の中にありて神の喜びたもう捧物と犠牲とを奉るべし。……

またモーセとアロンの息子らは，シオンの山上主の宮居の中に在りて主の栄光に充たさるべく，而して汝らはモーセとアロンの息子たちなり。……

およそ忠実にしてわが今語れる二つの神権（アロン神権とメルケゼデク神権）を得，而してその天よりの召しを全力を尽して遂行する者たちは，『みたま』により聖められてその肉体再新さる。」（教義と聖約84：31―33）

私はこれが真実であると信じている。私は，神権の召しを全力を尽くして遂行する兄弟たちには，その肉体に変化が起こると思っている。リー大管

長は今朝の福祉集会でのお話の際，ある外部の人についての話をされた。その人はマッケイ大管長に会ったとき，こう尋ねた。「あなたは神の予言者ですか。」それに対し，マッケイ大管長は答えた。「私の顔を眺めて下さい。そうすればわかるでしょう。」

私はかつて，今の愛する指導者の父ジョセフ・F・スミス大管長についての話を耳にしたことがある。大管長がアリゾナで，知事やその他高名な人々と共に，ある祝典に参列したときのことである。数人の人が，教会の大管長と一緒に写真をとりたいと願い出た。ジョセフ・F・スミス大管長は，喜んでこれに応じ，写真をとる間中，一緒に立っていた。写真をとり終って皆がその場を離れ群集の中に戻ったとき，知事はこう言ったそうである。「私はあの人のそばに立っていて，自分が泥棒か何かであるような感じがしたよ。」この人は，神権の召しを全力を尽くして遂行している偉大な人物の中にこもる力を感ずることができたのである。

「……忠実にしてわが今語れる二つの神権を得，而してその天よりの召しを全力を尽くして遂行する者たちは，『みたま』により聖められてその肉体再新さる。

これらの者はモーセの息子たちとなり，アロンの息子たちとなり，アブラハムの子孫となり，また教会員にして王国の民となり神の選民となる。」（教義と聖約84：33—34）

予言者ジョセフ・スミスは，神権を持つ兄弟たちに，その召しと選びを確固たるものとするよう，絶えず勧告していた。啓示はさらに続く。

「主は言う，またすべてこの神権を受け入るる者は，われを受くるなり。」（同35節）

私の考えでは，この箇所は主を代表するべく指名を受けた神権役員を受け入れる人々を指していると思う。

「主は言う，またすべてこの神権を受け入るる者は，われを受くるなり。

そは，わが僕らを受け入るる者はわれを受くればなり。

また，われを受け入るる者はわが父を受くるなり。

而して，わが父を受け入るる者はわが父の王国を受くるなり。この故にわが父のもてるすべては彼に与えらるべし。

而してこは神権に属ける誓詞と誓約によりて然るなり。」（教義と聖約84：35—39）

スミス大管長は，折りにふれ，祈りと勧告の中で，私たちが与えられた誓約と責任に真に忠実であるよう希望しておられる。「神権に属ける誓詞と誓約」の義務が，私たちひとりびとりにかかっていることは疑いの余地がない。主がこう言われているからである。「この故にこの神権を受くる者は，すべてわが父のこの誓詞と誓約とを受け，而してこれをわが父は破ることも変えることも為したもうはずなし。」（教義と聖約84：40）

それ故，主との誓約に入った私たちが自分の分を履行すれば，つまり神権の召しを全力を尽くして遂行するならば，主は私たちに永遠の生命を約束されるのである。

啓示には，主はこの誓詞と誓約の主の分を破ることはないとある。しかし私たちは自分の分を破りうるし，多くの神権者が現に破っている。そういう人々について啓示は次のように言っている。

「されど何人にまれ一度この誓約を受けて後これを破り，またことごとくこれに違背する者はこの世に於ても未来の世に於ても罪の赦しを受くることなかるべし。」（教義と聖約84：41）

私が思うには，この聖句は，神権の召しを全力を尽くして遂行できなかった人が皆許されない罪に定められるというのではなく，私たちが現在入っている契約——バプテスマの水に入ること，什分の一，知恵の言葉，その他諸々の契約——を一度結びながら，その契約に従って生活することを捨てた人々は永遠の生命の約束を失う危険を冒している，ということを言っているのである。

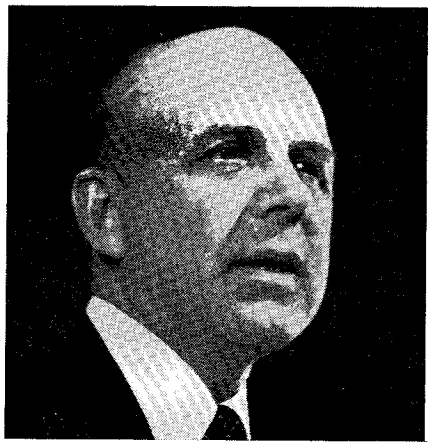
今宵，この教会の指導者について，また彼らがこの地上における救い主の代表者であること等について話されたスミス大管長の話が真実であると証したい。神権には力があることを，また私たちが最善を尽くしてその任を果たすなら，天から力を受けることができることを私は知っている。

神の助けがあって，私たちがこれを理解し，また神から神権を受けることによって課せられた偉大な誉を理解することができるよう，イエス・キリストの御名により祈るものである。アーメン。

神　　権

その権能と力

――神権の権能は，正しく行使されれば，今日地上で最も偉大な権能となる――



七十人最高評議員会会員
A・セオドア・タトル

十二使徒評議員会地区代表セミナーを含む本大会において，直接的にも間接的にも，ほとんどすべての説教者により絶えず繰り返して述べられているテーマは，神権の重要性と必要性についてである。私もこのテーマに焦点を合わせて話したいと思う。今日，この地上における神権の権能と力は，歴史上の他のいかなる時代にも増して偉大なものとなっている。

1835年3月28日オハイオ州カートランドにおける十二使徒評議員会の会合で，予言者ジョセフは神権に関する極めて重要な啓示を受けた。

「当教会に二つの神権あり。すなわちメルケゼデク神権と……アロン神権なり。

何故に前者をメルケゼデク神権と称うるかと問わば，メルケゼデクは誠に偉いなる大祭司たりし故なり。

メルケゼデクの前の時代にありてはこの神権は神の御子の神権の聖なる神権と称えられたり。

教会に於けるあらゆるその他の権能または職務はみなこの神権に従属す。」（教義と聖約107：1―3，5）

私たちはいかにしてもこれらの事柄を理解しなければならない。ジョセフ・F・スミス大管長は言われた。

「神権から生じる職務で，神権そのものよりも大きいものはない。職務が権利や力を帯びるのは，神権からもたらされるのである。職務が神権に権能を与えるのではない。職務についたから神権に力が加わるのではない。当教会におけるすべての職務は，神権から力，徳，権能を受けているのである。もし兄弟たちがこの原則を完全に把握するならば，教会における統治機能に関する誤解が，今よりも遙かに少なくなるだろう。」（「福音の教義I」P.184）

教会には神権者の群れの中より選ばれる3つの管理定員会がある。

「必要上，これら二つの神権の中にある諸種の職に按手聖任せられたる者の中より出でたる……管理者すなわち管理職員あり。

メルケゼデク神権を有てる者の中三人の管理大祭司あり，当団体により選ばれ，その職に任命して按手聖任され教会員の信任と信仰と祈りによりて支持せられ，当教会の大管長会なる定員会を構成す。

十二人の巡回評議員は召されて十二使徒となる。すなわち全世界に於けるキリストの御名の特別の証人となるべき者なり。……

またこの十二人は，前記の三人の管理大祭司と権能と権威とを同じくせる定員会を構成す。

「七十人」は……十二使徒会の指揮の下に教会を設立し，またよろずの国民に於ける教会のあらゆる事務を整理するに主の御名によりて行なう……べき者たちなり。」（教義と聖約 107：21―24，34）

神権とは何か。ジョン・テイラー大管長の言葉である。

「……それは地においても天においても神の政体そのものである。何となれば，地上，天上を問わず，あらゆる物事が治められるのは，その権能，働らき，原則によるのであり，またあらゆる物事が支持されるのもその権能によるからである。神権はあらゆる物事を治め，あらゆる物事に指示を与え，

神権―その権能と力

あらゆる物事を支える。神と真理に調和するあらゆる物事に関係をもっているのである。それは天上においては英知に，地上においては人に付与される神の権能である。」（「福音の王国（英文）」P.129）

昇栄に達するために，人は聖なる神権を得，そしてその召しを全力を尽くして遂行しなければならない。

「およそ忠実にしてわが今語れる二つの神権を得，而してその天よりの召しを全力を尽して遂行する者たちは，「みたま」により聖められてその肉体再新さる。

これらの者は…神の選民となる。

而して……この故にわが父のもてるすべては彼に与えらるべし。

而してこは神権に属ける誓詞と誓約によりて然るなり。」（教義と聖約84：33，34，38，39）

しかし，これには神権の召しを全力を尽くして遂行するという条件のあることを忘れてはならない。この神権の発揚と執行に関しては今日，教会において，偉大な精力が払われ，非常な強調が置かれている。

「この故に各人皆自らの職務を守り自らの天職を努め……かくして……その系統完全に保たるるなり。」（教義と聖約84：109，110）

こうした責任にあって，今日の教会の大祭司たちは，総合的な神権の責任を持ち，系図の探究と神殿の儀式の執行にあたっている。彼らは，神権を通じて，教会の各会員が適当な時期と方法でその死者の救いの業に携わっているかどうかをみるのを仕事とする。つまり，この意味するところは，全会員が，

1　個人の覚えの書を持つこと

2　最低4代の系図を完成させること

3　神殿参入の推薦状を受けるにふさわしく生活すること

4　神殿で行なわれる死者のための儀式に参加すること

である。

七十人もその職務を守り，自らの天職を努めるべく，その仕事は神権伝道活動にある。七十人は宣教師として，教える専門家である。会員としての私たちの強さは，求道者を見つけ，フェローシップすることにある。一致協力すれば，私たちは力強いチームとなって天父のすべての子供たちに回復のメッセージを携えていくことができるのである。

長老は，その職と召しにあって，福祉活動に責任を持つ。しかし，主要な責任は，神権ホーム・ティーチングを通して，聖徒たちを完き者とすることにある。長老定員会の会長は，ワード部において，監督を除く他のいかなる人にもまして多くの人々に福音を伝えるという特殊な召しがある。

神権ホーム・ティーチャーの責任は

「…各会員の家庭を訪れ，彼らが声を挙げてもひそかにても祈りをなし，またすべて家庭の務めにいそしむように勧め，

……常に教会員を守護し，彼らと共にありて彼らを強くすべきものとす，

……教会員の中に邪曲なきよう，互いの間に頑固なることのなきよう，また虚言，蔭口，悪口などもなき様注意すべきものとす。

また教会員のしばしば集会することをはかり，またすべての会員にその義務をつくすようになさしむ。」（教義と聖約20：47，53―55）

こうした各々の義務は，主により，家庭を強めるべく企図されている。この聖句の指示では，「教える」という言葉が間接的にしか述べられていないことにお気づきであろう。恐らく，私たちがホーム・ティーチャーとしてその義務を完全に把握するならば，ホーム・ティーチングは，終局的に主が各家庭で指導するべく聖任された人により行なわれるであろう。

神権ホーム・ティーチングは，いまだその召しのかくあるべき姿にまで達してはいないが，私たちはホーム・ティーチングが教会における奉仕の中で最も高尚な概念であることを理解しつつある。ひとつのことは確かである。それが人を救う奉仕の業であるということである。

教会において，神権こそ悪の進出に対抗しうる強力なとりでである。この地上において，悪魔の攻撃に抵抗しうる力は，各家庭で神権を尊ぶ義しい人の集まりをおいて他にない。

アロン神権を持つ若人もないがしろにされてはいない。主はその知恵によ

り，若い諸君が王国の奉仕の業を果たすべくその若いときに召すことを，よしとされた。諸君は教会のプログラムを理解しないがゆえに，教会は重大な論争を避けていると感ずることがあるかもしれない。

当教会には，若人に対する召しもあり，諸君が指導者の勧告に従いさえすればなすべきことが山程ある。諸君が好き勝手な行動をとって暴走するのは主のみこころではない。ここに「手綱を握る手は，積み荷を引く力とは違う。」というひとつのことわざがあるように，若人の熱意と精力が，成熟した大人の知恵と結びつけば偉大なチームとなる。それこそ主が，アロン神権者とメルケゼデク神権者が共に働くよう意図されたことなのである。

何故，あなた方に純潔な生活を送るよう勧めるのか。あなた方が，神の王国に貢献するにふさわしい僕となるためである。

67年前，ジョセフ・F・スミス大管長は言われた。

「もし長く生きられるなら（ある者は十分生きられなくても，他の者が生き残るだろう），次のような日が来るのを期待している。それは末日聖徒イエス・キリスト教会のすべての神権評議員会が，英知と能力に応じてできる限りその義務を悟り，責任を引き受け，また神権の召しを全力を尽くして遂行し，教会における役職を果たすようになる日である。その日が来れば，現在補助組織によって行なわれていることはそれほど必要ではなくなるだろう。なぜなら神権の正規の定員会によって行なわれるからである。主は初めからそう計画され，認めておられた。それで主は，すべての必要を神権の正規の組織によって満たす用意をされた。」（「福音の教義Ｉ」Ｐ.196）

今，神権のそれぞれの職で最も力強い人が神権指導者として召されるその日が到来しつつある。

現在長老見込み会員であるあなた方には，自分のもつ可能性を高めるよう勧める。家庭で霊的な指導者となりなさい。この責任の外とうを身にまといなさい。神の王国であなたとあなたの愛する者とに救いと昇栄を与える奉仕の業に携わりなさい。この呼びかけはありきたりの奉仕への召しでもなければ，気違いじみた訴えでもない。個人の生活を秩序だて，家庭の事柄を律し同胞に奉仕の手を差し伸べ，そして神よりのこの権能を通し，他人の生涯に祝福をもたらしなさいとの厳粛な警告である。

霊感あふれる指導者を有するこの教会は，すでに悪魔と対抗している。私たちが関与するはずの戦いは遙かな未来にあるのではない。現在こそその時なのである。これを明確に見極めないと言うなら，今日の幹部の方々の警告を理解していない証拠に他ならない。

３日間にわたる話を聞いた今，本大会のメッセージは明白である。神権の責任を引き受け，主の御業を押し進めることである。これは普通の大会ではない。単に「今までで一番良い大会」でもない。悔い改めて，この教会に賜わったこの偉大な権能の業を全力を尽くして遂行せよとの明確な呼びかけを私たちは聞いたのである。

兄弟たちよ，私は訴えたい。立ち上がれ，怠惰と無精の足かせを振り捨てて前進せよ。

予言者ジョセフの激励の言葉をあげよう。「兄弟よ，われらまことに偉なる大義に向って進まざらんや。進み行きて退くことなかれ，奮い起てよ，兄弟たち。進み進みて勝利に至れ……」（教義と聖約128：22）

イエスがキリストであると証申し上げたい。イエスが永遠に偉大な大祭司であると証する。天父なる神とその御子イエス・キリストが実際に予言者ジョセフ・スミスの前に現われ，この時代に新しくイエス・キリストの教会を設立し，ジョセフに神の権能を賦与されたことを証する。

ここにおられる幹部の兄弟たちが，聖なる神権の鍵を保持しておられ，またその言葉には力と霊感があると証する。全世界を見ても，他にこのような人々はいない。彼らが現在の地位にあるのは，党利党略の結果でもなければ人気投票の結果でもない。啓示と按手により召されたのである。私たちができる限り，霊感あふれる彼らの勧告に耳を傾け，従うならば，何事も申し分ないものとなるであろう。イエス・キリストの御名により，アーメン。

46歳当時のウィルフォード・ウッドラフ

神権者の責任

末日聖徒イエス・キリスト教会
第4代大管長
ウィルフォード・ウッドラフ (1807—1898)

1880年7月4日に話された説教（一部省略）

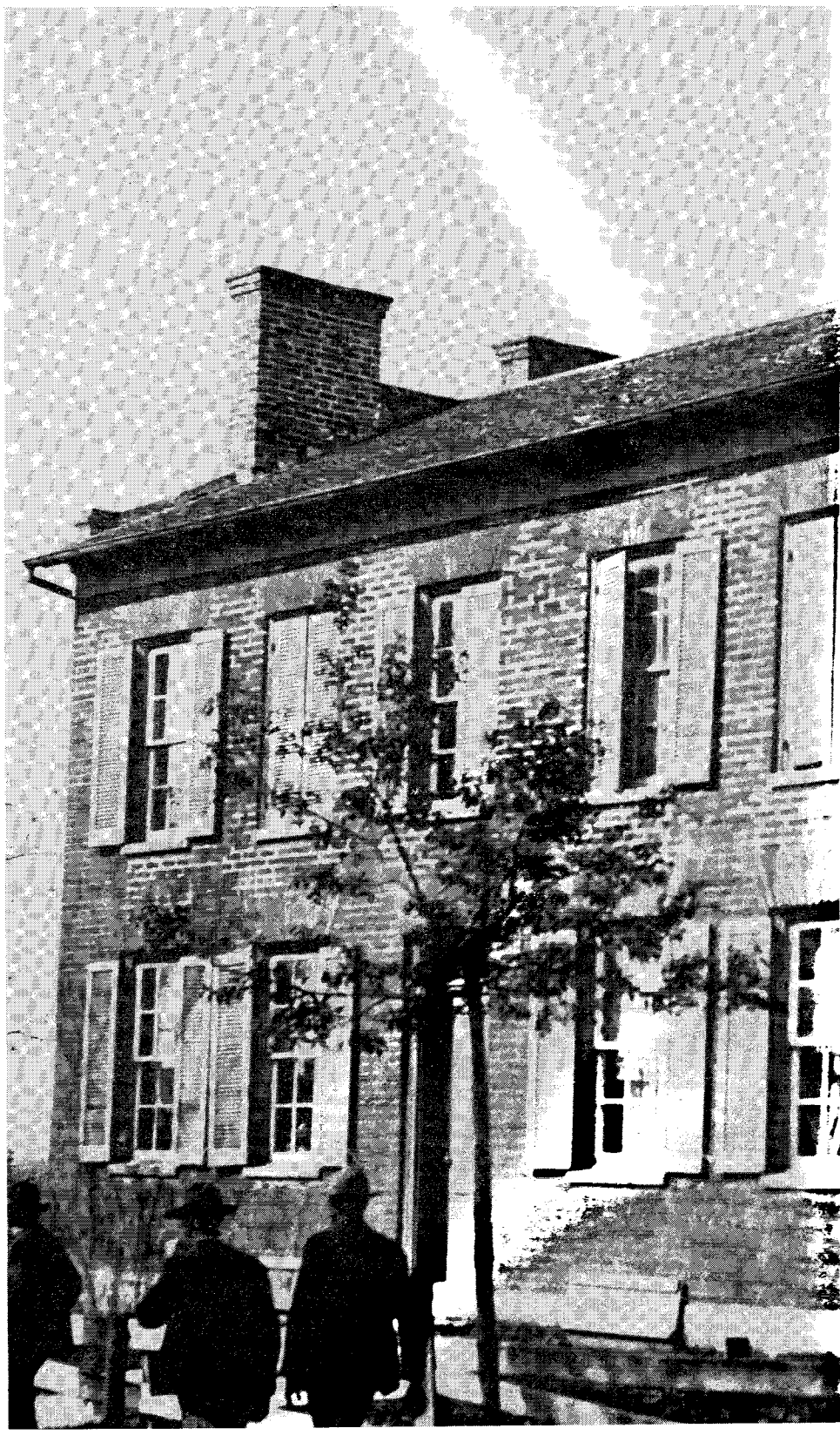
私は今，私たちの状態，すなわちあるひとつの業に召されている民としての私たちの立場について考えている。私たちが兄弟たちを伝道に送るとき，あるいは教会の務めのために派遣するときには，もちろんそれを成し遂げてほしいと願ってそうしている。また主もそのように望んでおられる。伝道と同様に，今夜この場に臨席のイスラエルの長老たち，および王国であるこの教会内の長老たちについても今思いめぐらしている。

私たちはある務めを果たすように任じられてきた。そしてそれに取り組み成し遂げる時を設定した。そのためにどれほどの歳月が必要か，私には必ずしもわからない。しかしこの務めは私たちの手に委ねられている。しかも私たちが召されている，あるいは任じられている職が何であるかは，全く問題ではない。

またある務めが課せられるときに，私たちはそれを無視することも放棄することもできない。私たちが保つと保たざるとにかかわりなく，必ず残されるひとつの記録があるからである。これが事実であることは，多くの啓示で示されている。あなたの歴史があなたの行く末を決めるのである。あなた方は皆，幕のかなたに行くと，それを知るであろう。すべての人の歴史すなわち行ないは，その人がこの世で記録してきたか否かを問わず，必ず書き留められている。「かんらんの葉」として知られている啓示（教義と聖約第88章）の中に，このことがはっきりと示されている。私たちの双肩に課せられた務めがある。ジョセフ・スミスもブリガム・ヤングも負っていたし，十二使徒もまた私たちも皆負っている。それを果たさなければ，私たちは罪ありとされるであろう。幕のかなたに行くと，そのことがわかる。しかし非常に多くの人がこの義務を軽視し，その結果神の王国であるこの教会を去っている。

私は神に負っている私の責任と，この時代のすべての神権者が負っている責任を十分理解できるように，幾度も心の内に考え願ってきた。しかし私は兄弟たちに申し上げたい。私たちはあまりにもこの世の事柄に心を捕われている。また私たちは，神と高き天と，また地とに対して負っている大きな責任を認識していない。それは本来この時代の神権者が負うはずのものである。私たちは主から遠く離れているよ

ノーヴー市ダーフィー通りのウィルフォード・ウッドラフ宅



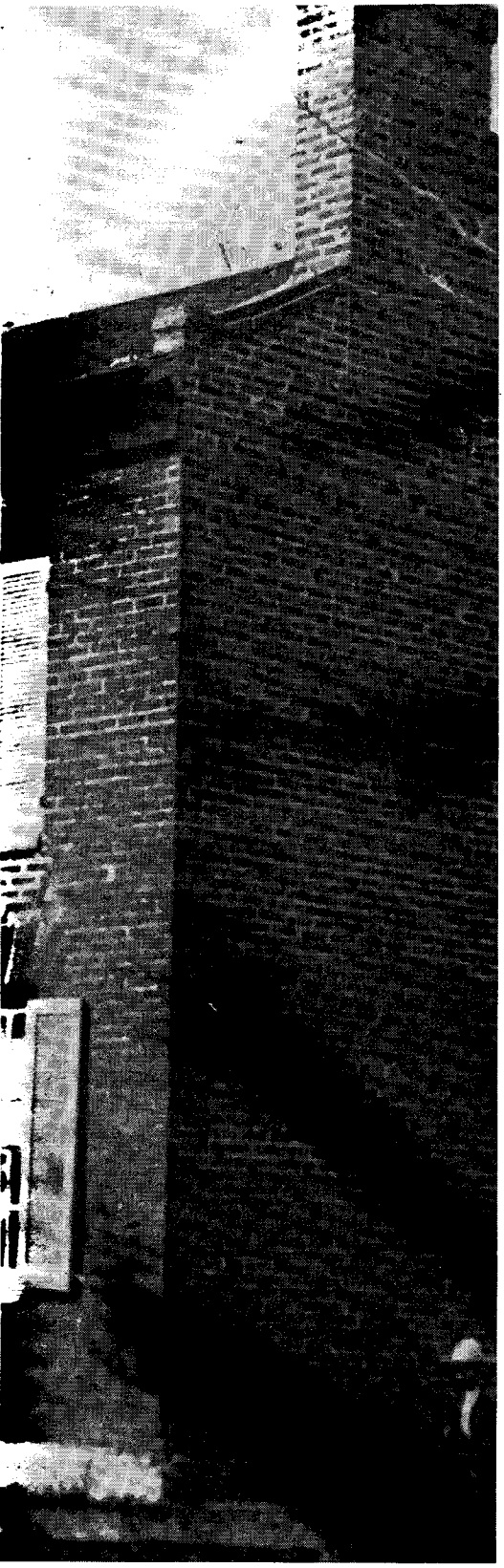
神権者の責任

うに思われる。本来望まれている程には，この宗教に沿った生活をしていない。また末日聖徒として本来あるべき姿で，この王国の確立に心を注いでいないようである。

このように言ったからといって，私があなた方と敵対していると思わないでいただきたい。私たちには果たすべき大切な業があることを私は感じている。また私たちがこの世を去ったら，他の人々がその業を引き継ぐであろう。私は生涯の務めについて思いをめぐらしている。考えるに，私たちがこの盆地に来てから，８名の使徒が霊界に行った。私自身もそこに行くだろう。兄弟たちにも備えができるように願っている。多くの歳月が過ぎないうちに，私たちは皆そこに行くであろう。私はその他のことは何も求めていない。この１，２年間，王国を築くために努めること以外，他に何の務めもないと心に感じてきた。神が私の手に求めておられる務めを軽視して，この世の事柄に心を向けることが正しいとは思っていない。

この時代，すなわちこの世に住んでいる12億以上の人々について考えてみよう。多くの人々の行ないは，正に神の裁きを受ける時期が来ていることを示している。人々の頭にまさに神の怒りが下ろうとしている。これらの事柄を考えるに，もし私が人々の前で証を述べることを怠るなら，すなわち機会がありながら世の人々に証を述べるのを怠るならば，霊界に行ってそれを後悔することを知っている。

これがこの業に関して私の感じると



ころである。神はこの時代の人々に証を述べるように私たちに求めておられる。この時代の人々の広がり，すなわち莫大な人口を考え，また今の時代は神が偉大な最後の王国を築くためにその御手を置いておられる神権時代であることを考慮すると，この業の偉大さをよく理解することができる。この王国は主がこれまでの時代に築かれた王国の中でも，福千年の間を通じて地上に残る唯一のものである。

世はいつも予言者たちに戦いをしかけ，市と共に天に取り上げられたエノクを除いて，予言者たちを滅ぼしてきた。父なる神の約束通りに今日地上に神の王国があり，それが人の子の来臨まで地上に存続することを認め，さらに私たちの責任を実感するならば，私たちは皆それぞれの召しを全力を尽くして果たしたいと願うであろう。

この世代に，今日見るとおり，国々に囲まれ，10億にも及ぶ人々の怒りと憤りに接しながら，私たちはこの地上に存続する神の王国を築く力を得，至高者なる神のために数々の神殿を建てる力を得，さらに主の助けを受けて務めを果たさなければならない。私たちは長年この世の人々に証を述べてきた。私も兄弟たちも，またイスラエルの長老たちも述べてきた。イエス・キリストの福音，モルモン経さらに私たちのこの時代に立てられた神の予言者たちについて証を述べてきた。これらの証は，この世代の人々に対する裁きの要素となり，証を拒む人々を責めるものとなるであろう。

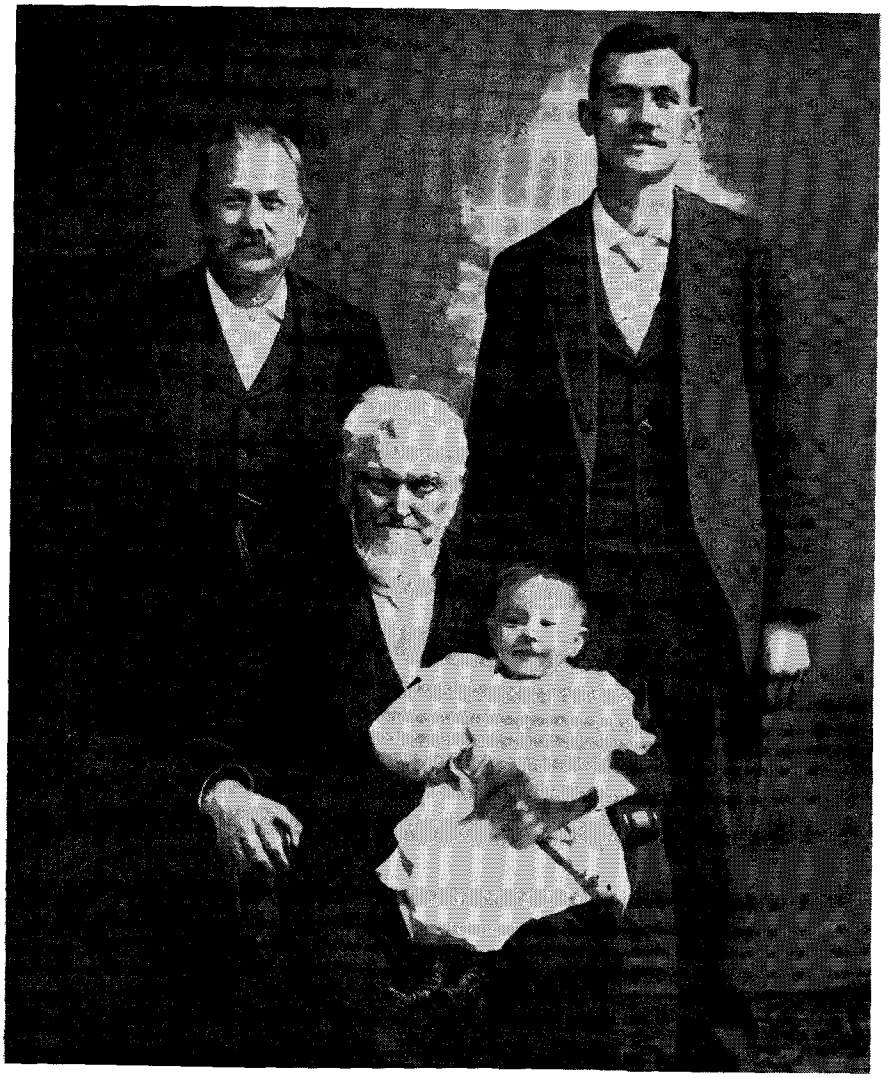
この王国は私たちに託されている。天の王国は私たちと共にある。神はこれまで私たちを助けてこられた。また神は人の怒りを解きたもう。敵の手をしばり，またシオンに敵対して作られるすべての武器を破壊したもう。神はこの山中の盆地に人々を住まわせられた。

監督ならびに権能を授けられたすべての兄弟たちに申し上げる。私たちはこの業を続けることに関心を持たなければならない。神のみたまを受けるように努めなければならない。心の眼が開かれるように主に求めることは，私たちの権利であり，特権であり，義務である。それによって私たちは，生を受けているこの時代がどういう時代であるかを知ることができるのである。与えられている務めについての主のみこころと御旨を知ることは，あなた方の特権であり，私の特権でもある。これを求めることを怠るときに，与えられた召しを全力を尽くして遂行することがなおざりにされるのである。

私たちは，何か務めを果たすように求められたときに何も考えるべきではない。むしろ，求められた事柄は，貫徹する意志をもって果たすべきである。初期の伝道の時代を思い起こしてみよう。テイラー兄弟，ブリガム兄弟私およびその他の兄弟たちは，病気で熱や悪感に苦しみ，死の力にさいなまれながら福音を説くために出発しなければならなかった。しかも，食物も服もなしに妻子を残し，財布も旅の袋も持たずに出かけた。私たちはそうするように，神に命じられたのである。もしそうしなかったならば，私たちは今

神権者の責任

教会歴史事務局



1896年頃のウィルフォード・ウッドラフと3代の子孫

日ここにいなかったであろう。しかしこれに従ったので，神は私たちを祝福して下さり，この教会の忠実な長老たちを支えて下さった。さらに私たちが成し遂げるまでそうして下さるであろう。

私はこれらの事柄について，自分の気持を述べたかった。今私たちの立場について考えている。私たちには述べるべき証がある。また，私たちには義務をどのように果たすかについて責任があることを私は実感している。私たちはそれぞれ，使徒，七十人，長老，祭司その他として，至高者である神に対し責任を負っている。義務を果たすならば，私たちの衣は清くなるであろう。

私たちはシオンの城壁上の見張り人である。来たるべき事柄について世の人々に警告するのが私たちの務めである。もし人々が私たちの証を拒むならば，そのとき彼らの血は彼らの頭に注がれるであろう。神の裁きが邪悪な人々に下るとき，彼らは警告を受けなかったと言うことはできない。私や大勢の人々の衣は，ジョセフ・スミスやブリガム・ヤング，その他死ぬまで信仰に忠実であったイスラエルの長老たちの衣と同様，この世代の人々の汚れに染まず，清いのである。私たちは証を述べてきた。神の裁きが下るときに，人々は警告を受けなかったと言うことはできない。この世で私たちの受けている職は，私たちにとっても彼らにとっても非常に大切であると思う。私は霊界に行って，この世の人々に責められたくないし，また義務を果たさなかったと言いたくもない。

かつてこのような時代は全くなく，今のような人々も存在しなかった。神が世界を創造されて以来，このような御業が行なわれたこともない。確かに福音を説いた人々はこれまでにいた。しかし，主が王国を建てるためにその御手を置かれたのは，時満ちたこの時代である。今は最後の神権時代である。主は御業に従事する男女を立てられた。これまで述べてきたように，この世が組織されてから，私たちの住んでいるこの時代に至るまで，多くの人々が霊界に留め置かれていたのである。

私たちの生命はキリストと共に神の内に隠されてきた。そこで悪魔は，私たちが生まれたその日から現在に至る

まで，私たちを殺そうとねらっている。しかし主は私たちを守り，神権を授け，王国と王国の鍵を与えて下さった。天父の期待を裏切れるであろうか。この時代を待ち望んでいた，いにしえの予言者や使徒を失望させられるであろうか。この業の基を据えて，私たちにその後の仕事を託してこの世を去ったジョセフ・スミスや兄弟たちの期待を裏切れるであろうか。

兄弟たちよ。神のために，永遠の生命に関する事柄を軽視して，この世の事柄に心を向けるようなことがあってはならない。すべての事柄について導きを与えるために幹部指導者が召されているが，彼らの勧告に従うことは難しいと，監督に感じさせるようなことがあってはならない。もし父祖アダムのように一千年間この地上で貧しい境涯の中に生きながらえ，生涯働き続けて完うしたとしても，一生を終えてその行ないによって第一の復活の朝に妻子と共によみがえることができ，神のみもとで一緒に暮らすことができれば，それだけで一千年間の働きに対する十分な報いとなるであろう。私たちが行ないあるいは忍ぶもので，神が明らかにしておられる「王国が増し加えられる」ことや，王位，公国に比較できるものがあるだろうか。

私たちは王国を受けているので，それを維持しなければならない。信仰を失うことは，あなた方のためにも私のためにもならない。しかしこの危険があることをあなた方は知っている。ジョセフ兄弟は，いつも次のような勧告を与えていた。「神が果たすように求めておられる義務を放棄し，自分の望みを満たそうとするなら，正にその瞬間に，すなわち無とん着になり始めた瞬間に，あなたは背教の基を据えているのである。注意しなさい。御業に召されていることを認識しなさい。そして神がその務めを果たすように求められるときにそれをしなさい。」また次のようにも語っている。「あらゆる試し，困苦，病い，苦難また死に遭遇しても，神を裏切らないように，神権者を欺かないように，また背教しないように注意しなさい。もし背くならば後悔するときが来るだろう。」私たちはこのような勧告を何度も受けた。そして私はその日から今日までそれを心に留めてきた。

義務をなおざりにするなら何ら得るものはない。私はこの教会すなわち王国では何の罪も犯していない。しかし義務をなおざりにするなら，その怠慢の値うちの一千倍にも相当するものを失うのである。罪を犯せば罰せられ勧告を無視すれば罰を被る。そして悲しみが訪れる。唯一の安全な方法は全力を傾けて義務を遂行し，王国を維持することである。

私たちが神を忘れるのではないか，また神から受けている職務を忘れるのではないかと私は案じている。これは私自身について言えることである。これまでに満足や幸福を得たとすれば，私はそれを「モルモニズム」から得たのである。私に対して，あるいは私について何かがあるとすれば，「モルモニズム」によって与えられたものである。何らかの祝福を受け，神の事柄を証する力を得，また教会すなわち神の王国に何かもたらす手段があったとすれば，それは神の力，あるいは「モルモニズム」と呼ばれるもの，キリストの福音によったのである。

これらの事柄を成就したのは神の力であることを私は知っている。私たちは所有しているすべてのもの，すなわち富や賜，妻子等を，神の力によって受けたのである。あなた方の中の何人が，来たるべき世の王国，権威，公国を頭に結び固めてきたのであろうか。だれがこれらの祝福を金銀やこの世の物と比べることができるであろうか。また何を永遠の生命の賜と比べられるであろうか。

あなた方を祝福し，また聖なる神権を持つすべての人々を祝福したもうように，天父なる神に祈り奉る。神の祝福があなた方の上にあるように。私たち民は，立ち上がって神の権威を身にまとわなければならない。私たちの中に刷新すなわち変革がなければならない。私たちの間には非常に多くの悪がある。悪魔は私たちに非常に大きな力を及ぼしてきた。そしてキリストの御名と聖なる神権を受けているかなり多くの人々が，神の事柄について熱を失っている。私たちは目ざめ，ランプの手入れをし，人の子の来臨に備えなければならない。神があなた方を祝福したもうように。私たちすべてを導き，指示を与え，御手の内に留めたもうように。私たちを清め，永遠の生命を受け継げるように備えさせたもうイエス・キリストの御名によって祈り奉る。アーメン。

永遠の鍵と管理する権能

今日におけるメルケゼデク神権者の義務と権能

第10代大管長
ジョセフ・フィールディング・スミス

私はここであなた方に，神権とその鍵について少々話そうと思う。主は今日，この最後の福音の神権時代に，この神権の鍵を私たちに授けられた。

私たちはこの聖なるメルケゼデク神権を保持している。そして，この神の能力と権威は人類の救いのために働くようこの世の人に委託されたのである。

また，私たちはこの世における神の王国の鍵も保持している。今日，神の王国とはこの末日聖徒イエス・キリスト教会のことである。

これらの鍵とは管理する権能であり，この地上において神に属する事柄すべてについて指示を与え，管理する能力と権威である。そしてこれを保持する者は他の神権者が神権の職に仕える方法をすべて管理し統治する能力をそなえている。私たちは全員神権を持つことができるが，その神権は鍵を保持している者によって指示されたり権能を与えられたりする範囲においてのみ行使できる。

この神権と多くの鍵はペテロ，ヤコブ，ヨハネによって，またモーセ，エライジャ，その他古代の予言者によって，ジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリに授与された。これら神権の鍵は十二使徒評議員会の会員にそれぞれ与えられている。しかし鍵は管理する権能であるから，この地上では神の先任使徒，すなわち大管長によってのみ完全に行使されうるのである。さて，今明確に述べると，私たちは聖なる神権を持ち，神の王国の鍵はここにある。それはこの末日聖徒イエス・キリスト教会においてのみ見いだされる。

啓示の中で，主はジョセフ・スミスにこれらの鍵について次のように述べられた。「こは大神権の大管長会に常に属するものなり。」（教義と聖約81：2）「何人にてもわが言を受け入るる者はわれを受け入るるなり。而してわれを受け入るる者は，わが遣わしたる者すなわちわが名のために汝の助言者となしたる大管長会を受け入るるなり。」（教義と聖約112：20）

同じくこれに関連して予言者ジョセフ・スミスはこう言っている。「あなた方は，ダニエルのように主の家に向かって日に三度お祈りをする人々と知己になりなさい。大管長に注意を向けなさい。そしてさしずを受け入れなさい。」

さて，兄弟の皆さん，今ここでぜひともはっきりさせておかなければならないことがひとつある。それはこの教会の大管長や大管長会，あるいは大管長会と十二使徒会の統一見解は聖徒を決して間違った方向に導くことはないし，主の御旨とみこころに矛盾する勧告を世界に発することもないということである。

個人としては道をはずれたり，主が意図されるところとは異なる見解を持ったり，不十分な忠告を与えたりするかもしれない。しかしながら大管長会の意見や同じく神の王国の鍵を握る他の幹部の統一見解はいつも聖徒や世界を主が望んでおられる道へ導くのである。

主はこのことを非常にはっきりとジョセフ・スミスに語られた。「またわれ汝らに告ぐおよそ誰か権威ある者より聖職に按手任命され，またその者の権威を有てることと，教会の長たる者たちより正式の按手聖任を受けたることとが教会員の知る所にあらざれば何人といえどもわが福音を宣べんために出で行くこと，または教会を創立することを許されざるべし。」（教義と聖約42：11）「神の王国の鍵はこの世の人の手に委任され，福音はここより転じ行きて世の果にまでも達せん。あたかも人手によらず山より切り出されたる石の転がり出でて，ついに全世界に充ち満つるが如し。」（教義と聖約65：2）

さて，兄弟の皆さん，これらのことは真実である。主は私たちと共におられる。正義の要求は満たされる。私たちの要求は義しく，主は私たちを確かに導き，ついには勝利に至らせて下さるに違いない。

私は自信を持って証する。もし私たちが大管長会に注意を向け，その忠告とさしずに従ったならば，教会としてまた個人として私たちがこの世の生活で平安を得，来たるべき世においては永遠の栄光の世継ぎとなることを，この世のいかなる力といえども，変えたり，くいとめたりすることはできないのである。主イエス・キリストの御名により申し上げる。アーメン。

アロン神権はどうか

「汝ら，われと同じ業に働く僕らよ。救世主の御名によりて，われ汝らにアロンの神権を授く。こは天使の導きと恵み，悔改めの福音，罪を赦すために水に沈むるバプテスマなどの鍵を握る神権にして，まことにレビの子孫が主の御前に再び義しきに適いて捧物を捧ぐる時まで，この世より決して再び取り去らるることなし。」

（教義と聖約13）

ジェームス・E・タルメージ

ジェームス・E・タルメージ兄弟[1]は英国でアロン神権に聖任されたとき，まだ少年であった。当時，その地方には教会に対する迫害がかなり激しく，敵が近づいてくることを教会員に警告するため，ドアに見張り番を立てていたが，彼はその見張り番に任命されたのである。新しく按手聖任されたばかりの執事がこの責任に召されたところを想像していただきたい。

私は何の前ぶれもなく，ある日曜日の朝，突然呼ばれ，按手聖任されたのである。そしてその日の午後には，聖徒が礼拝するために集まる家の，見張り番に任命された。私がそのように按手聖任されるや，何とも言いつくし難い気持になった。私のようなつまらない少年が，神権の職に召されるほど神から栄誉を賜わるとはとても信じられなかったからである。私はアロンやレビの子孫が小神権に属する聖職に選ばれたことを読んだことがあった。しかし，この私が，そのアロンやレビの子孫に要求されている仕事の一部を務めるように召されたのである。それは私の理解をはるかに越えたものであった。私は恐れた。が，また幸福でもあった。私がドアの見張り番の責任を受けたとき，自分が11歳の少年に過ぎないということを全く忘れていた。そして，私は主に属し，必要なときは主が私を助けてくださるという確信を持って心強く感じていた。だが私は，人の目には見えないが，私よりもはるかに強い見張り番が何人も私のそばに立っているという感じをぬぐい去ることができなかった。

私が執事に聖任されたことは私の少年時代の生活全体に影響を及ぼした。私は，時々自分が執事であることを忘れるのを恐れた。しかし多くの場合，私は思い出し，それによっていつも義しい方向に進めたことに感謝している。学校の運動場で遊んでいるとき，特にゲームをしていて不正な得点を取りにかかったり，友だちと口論している最中に，私は思い出した。この思いはまるで大声で「僕は執事なんだ。そして，執事がこのようなことをするのは義しくない」と言われたように強烈だった。また試験の日に，他人の答案を写したり，教科書からカンニングできると思えたとき，私は再び思い出したのである。「僕は執事なんだ。正直で誠実でなければならない。」ゲームや試験で他の人が不正をしているのを見たとき，私は心の中で次のように言った。「彼らが不正を行なうことよりも私が不正をすることのほうがはるかに悪い。私は執事なのだから。」

執事の職の責任で，私に要求される仕事のうちひとつとしてたいくつなものはなかった。聖任されたことをたいへん誇りに思っていたので，どんな仕事でも受け入れられたのである。私は支部でただひとりの執事であった。そして働く機会がたくさんあった。

私が執事に聖任されたときの感動は決して消え去らない。また私が神権者として主の特別な職に召されたときの気持は，日々私にとって力の源泉となっている。後に，私が教会のもっと重要な職に聖任されたときも，すべての場合にもそうであったが，同じ確信，すなわち私は真実天から力を授けられた，これを誇りに思うように主は望んでおられるという気持を抱いたのである。私は次々に教師，長老，大祭司，そしてついに主イエス・キリストの使徒に聖任された。聖任のときにはいつも，新しく，心踊る感激があった。それは私が主の聖なる職，執事に召されたとき初めて知った感激と全く同じものであった。（「1914年執事定員会用テキスト（英文）」P.135，136）

1．ジェームス・E・タルメージ（1869—1933）1911年十二使徒に聖任される。

この記事は，教会の教義を教えるためではなく，読者にとって参考となり何らかの助けを与えるためのものである。

「どうしたらステーキ部大会にもっと有益さを感じることができるでしょうか。最近，大会へ行くのを時間の浪費のように思い始めています。」

教会の大会は，会員非会員の別なく共に集い，互いに，また話し手から力を吸収し合う特別な機会です。そこで語られる真理の言葉は，個人的な事柄はもちろんのこと，教会内で受けている召しに対しても有益なものを与えてくれます。

残念なことに，地方の大会や総大会に出席しても，何の意義も感じられないでいる人がいます。普通には話し手が非難されますが，でももし話し手にあやまちがあるとすれば，どうしてある人は不満足な気持で家へ帰るのに，一方その人の席の近くに座っていた別の人が，今までになかった程のすばらしい大会だったと感じて帰るのでしょうか。問題は話し手にあるのではなく，聴衆の側にあるのです。

確かに，話し手には準備をする大きな責任があります。話し手は，「互いにこの王国の教義を教ゆべし」という主の訓戒に従わねばなりません。熱心に教える者には恩恵が伴うであろうと約束されています。（教義と聖約88：77，78参照）準備にあたって話し手は，会衆が必要としているものを見きわめ，会衆がみたまの励ましを受けるように努めねばなりません。しかしまた，話し手を受け入れようとしないために，すばらしい説教が聴衆に伝わらない場合がどの位あるでしょうか。一方，聴衆が霊感を期待し，祈るときに，話し手はしばしば通常の力以上に話せることがあるものです。大会で受ける霊的成長，霊感，また満足感は，個人の関心度に非常に左右されるもののように思われます。

ある人々は，教会幹部が，今までのように定期的に地方の大会に出席できないことを残念がっています。御存じの通り教会の成長ぶりがそれを不可能にしているのです。イエスの次の言葉を思い出しましょう。「わたしがつかわす者を受けいれる者は，わたしを受けいれるのである。わたしを受けいれる者は，わたしをつかわされたかたを，受けいれるのである。」（ヨハネ13：20）換言すれば，もしある人が，地方の大会での話し手に敬意を払わなければ，主のみたまはその人と共にはないのです。

一体聴衆は，どうしたら大会にもっと有益さを感じることができるでしょうか。

第一に自分の心を準備して，期待し，感受性を富ませ，物事を明るく見るように努める必要があります。また戒めを守り，前回の大会で与えられた勧告を実行するよう努めなければなりません。大会に出席すると同時に，いやそれ以上に大切なことは，大会と大会の間の期間を忠実に生活することです。「彼ら忠実にしてわれを信ずる信仰を行いに表さば，彼らの会合する日にわれ彼らにわが『みたま』を注ぐべし。」（教義と聖約44：2）

また特別の問題や必要な事柄について，祈りをもって，時には断食をして主に近づくことは，あなたは言うに及ばず，話し手や聴衆にとっても有益なことです。

自分に対する主のみこころを受け入れようと集う人々に，主は次のように言っておられます。「見よ，こは汝らの主の喜ぶところにして，また天使たちも汝らを見て喜ぶなり。汝らの祈りの施しはサバオツの主の耳に達し，聖められたる者たちすなわち日の栄の世界に住む者たちの名簿の書に誌さる。」（教義と聖約88：2）

準備をすることに少し心を寄せれば，主のみこころはあなたに明らかにされ，大会はあなたの生活にとって意義あるものとなるでしょう。

リチャード・H・モーレー
家庭学習指導主事
オーストラリア

すばらしい町

作：ドロレス・アバロス
絵：ニナ・グローバー

これはメキシコのカタリーナという町のお話です。エルネストとリカルドは，学校が終ると，いつもからからの荒地や，地面のひびわれた牧場を通って，家へ水を運んでいました。山のふもとにある掘りぬき井戸から，大きなおけに水をくみ，てんびんぼうに下げて運ぶのです。

「今年の夏は何をしようか」とリカルドが聞きました。

エルネストの茶色の目は，ぼんやりしてねむそうでした。

「君は何をしたい？」とエルネストは聞きました。「いつも同じことばかりだねえ，変わったことは起こりそうにないし。雨でも降ってくれれば，水泳ぐらいはできるけれど。」

「クラブか何かを始めようか。マエストロ（先生）が言っていたみたいに……」とリカルドは言いました。

エルネストは肩にかけたてんびんぼうをかけ直して，「でも，先生は6週間も町に研究に行くんだぜ。先生がもどって来てからクラブを作るのじゃ，おそすぎるよ。……しかし何もない町だなあ，この町は。つまらないなあ。」

すると，「うん，名あんがある」とリカルドは目をきらきらさせて言いました。「井戸を掘るんだ。」

エルネストは，急にえがおになって叫びました。「そいつはいい，きっと今までで一番おもしろい夏休みになるよ。」

「そんなにうきうきするなよ。でも井戸はほんとうに必要だろう。君の家とぼくの家の間に掘ろう。そうすれば両方の家で使えるからね」とリカルドは言いました。

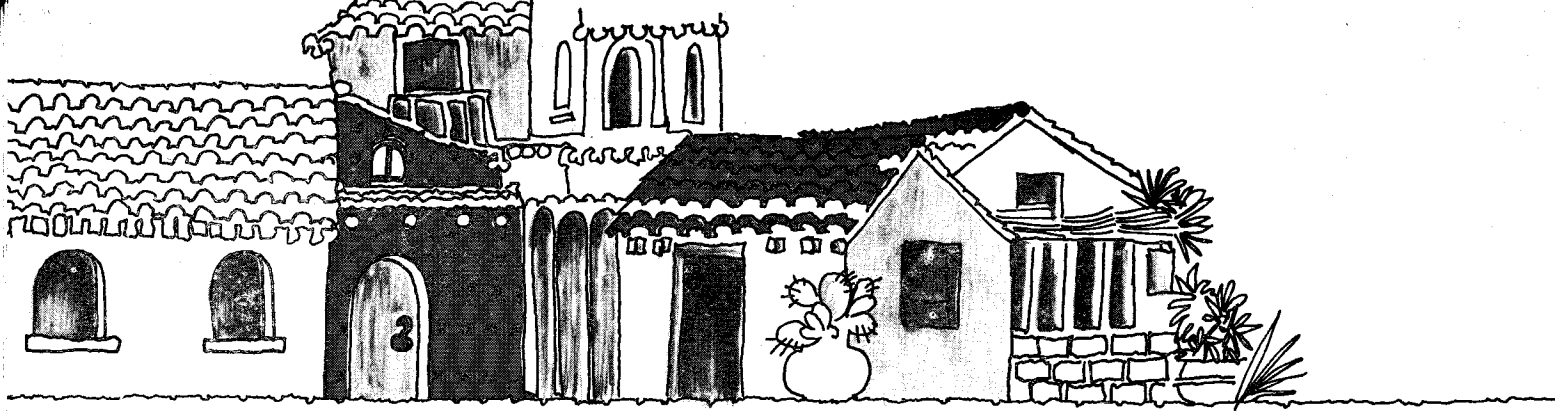
エルネルトは少しの間だまって，遠くの山の方を見ていました。山の向こうはどうだろう，そこもここと同じようにつまらない所なのだろうかと考えていたのです。

しかしエルネストは，さっきリカルドが言ったことをまた考え始めました。ほんとうにこの村には井戸が必要でした。

エルネストは自分が運んで来る水を，お母さんがはかって使っていることを思い出しました。お母さんは，はち植えのシダやベコニヤに，いちいちはかって水をやっていました。赤いレンガの床をはくのに，節約しながら水をまきました。そして，食器を洗ってよごれた水は台所の外のライムやオレンジの木にやりました。エルネストは山の向こうの町に行くのは，ひとまずやめにしようと思いました。

「井戸を掘ろう」とエルネストは言いました。

翌朝，エルネストのお父さんは，ふたりの家のさかいのサボテンのかきねのところに穴を掘るのをてつだってくれました。サボテンの根を掘り出し，穴のまわりにくいを打ち，太



いなわをはりました。

まもなく，ふたりはつるはしとシャベルを使って井戸を掘り始めました。土は太陽で焼かれて，とてもかたくなっていました。午後になると日ざしも強くなってきました。

「どのくらい掘ればいいのかな」とリカルドが聞きました。

「水に当たるまでだよ」エルネストは笑って答えました。

ふたりは来る日も来る日もいっしょに働きました。でも，エルネストは時々いろいろなことを考えました。そしてある日ふとクラークさんが話してくれたことを思い出しました。

クラークさんは地質学者で，カタリーナに住んでいました。エルネストはクラークさんの話を聞くのが大好きでした。

雨季が近いので日は暗く，空にはむくむくと雲がわきあがるのに，カタリーナにはまだ雨は降りそうにありませんでした。

ふたりは，穴の真上にかっ車をつるし，それで土や岩をバケツに入れて引き上げました。井戸はだんだん掘りにくくなり，手にたこができました。でもふたりは掘りつづけました。

そうしたある朝のこと，エルネストが井戸の中にはいる番になりました。エルネストはかっ車にかけたつなに体をしばって井戸の中へはいり，つるはしをふり上げ，するどく地面に打ちこみました。すると土が前とは変わっているのに気づきました。岩はなく，砂だけになっていたのです。エルネストはバケツに砂を入れ，また掘り始めました。すると今度は変な音がしました。

「きっと宝だ」とエルネストがじょうだんに叫ぶと，リカルドが外から穴の中をのぞきこみました。

2，3分後，エルネストは骨を見つけました。それはただの骨ではなく，とても古い大きな骨でした。

「つなにこれを結ぶから，引き上げてくれよ」とエルネストは叫びました。

リカルドがその骨を調べている間も，エルネストは掘りつづけました。

「おい，ぼくこんな骨見たことないよ」とリカルドが言いました。

すると，エルネストが興奮した声で叫びました。「おりて来いよ。下に何か大きな物があるよ。」

ふたりはそれから1時間ぐらいというものは，夢中になって土を掘りました。そして，もう掘り出すのはあきらめようとしたとき，それが急にするっと抜けました。それは骨ではなく大きなきばでした。それを立ててみると，ふたりの背の高さ以上もありました。

「きっときばだ」とリカルドが言いました。

「何かかわった動物だよ，クラークさんのところへ行って聞いてみよう」とエルネストが言いました。

「笑われちゃうよ」とリカルドはいやな顔をしました。

ところが，クラークさんは笑うどころか，ふたりをジープに乗せ，石ころだらけの道をとばして，ふたりが掘っている井戸のところへとんで来てくれました。

ふたりはクラークさんが大きなきばについた土をはらい落とすのを見ていました。クラークさんの小さな青い目はしんけんでした。

「私は古生物学者ではないが，メキシコ国立博物館に務めている友だちがいるから，電報を打ってみよう」とクラークさんは言いました。

翌朝，若い古生物学者，サルバドル・ビレガスがこの町へやって来るまでに，3人はさらに3つの骨を見つけました。その小さなできごとはまたたく間に町中に知れわたり，カタ

リーナは大さわぎになりました。せまい通りにはトラックやジープがあふれ，旅館という旅館はどこも新聞記者や古生物学者でいっぱいになりました。町の人まで，われもわれもと見にやって来ました。

ふたりの両親は，どうしても発くつが必要なのだとわかると家をたちのくことにしました。家はこわされることになり家のまわりにはロープがはりめぐらされました。リカルドとエルネストは専門家といっしょに発くつすることを許されました。

発くつが終るまでに，4頭のマンモス[1]の頭がい骨とほかの部分の骨が出てきました。

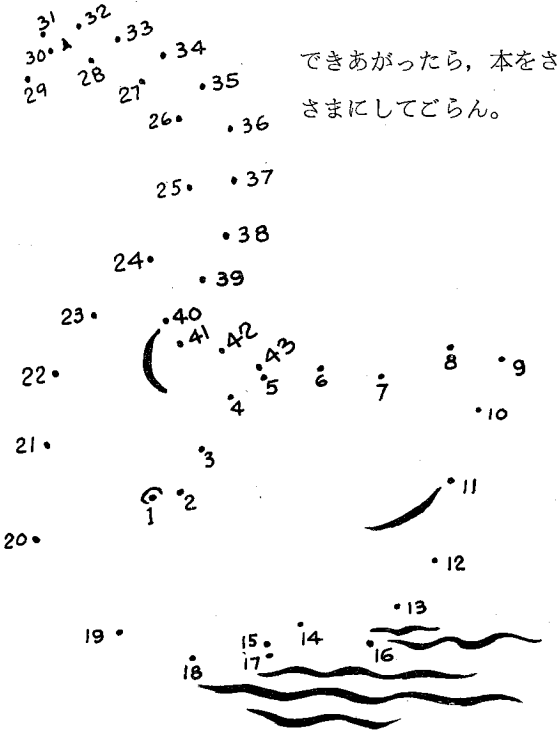
さわぎが静まるまでには，だいぶ時間がかかりました。しばらくして雨季になると，町の人はくり返しくり返しその話をしました。

「来年の夏は何をしようか」とある日リカルドはエルネストに聞きました。

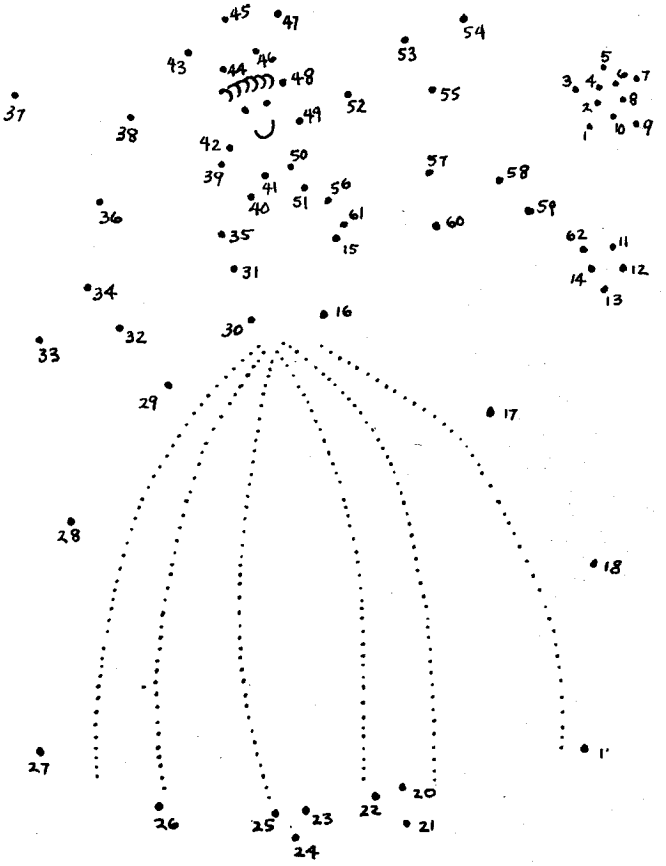
エルネストは目をかがやかせて，わらいながらこう言いました。「することはたくさんあるよ。新しい家を建てることや，井戸を掘ることや……」リカルドがわかったというようににっこりとするのを見て，エルネストは話すのをやめました。ふたりは遠くへぼうけんに行く夢を見なくてもよくなったのです。ぼうけんはこの小さな町の中でいくらでもできるのですから。

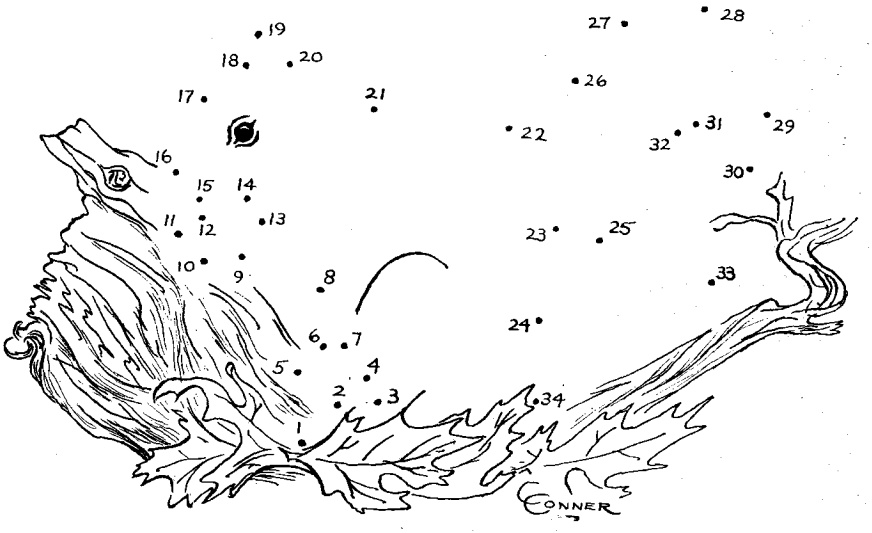
1．マンモス――大昔，北半球一帯に住んでいた象で，今は死に絶えてしまった。

これはなんでしょう



できあがったら，本をさかさまにしてごらん。





マリヤのおはなばたけ

ジュディ・ケイプナー

マリヤのおはなばたけには，いろんなものがかくれていますよ。いくつさがせるかな。

（かくれているもの）

アイスクリーム	女王さま
スキーヤー	クモ
あんぜんピン	サルのおやこ
すのなかのことり	ギター
ウサギ	ヘヤーブラシ
インク	

モーセの世話をしたミリアム

メアリー・L・ラスク
絵：バージニア・サージェント

それは暑い国のお話です。あたりは暑かったのですが，あしやい草の間はすずしく，ミリアムはそこで長いこと浅せのあしの間に浮かんだかごの番をしていました。

ミリアムは以前おかあさんのお手伝いをして弟のアロンのめんどうをみましたが，そのときと今とではだいぶちがっていました。アロンが赤ちゃんのとき，ミリアムはアロンをだいてイチジクの木のすずしい木かげでアロンと遊んだものでした。でもそれはエジプトの王パロが，ヘブル人の家に生まれた男の子はみんなナイル川の中に投げこむよう命令する3年前のことでした。

ミリアムが知っているヘブル人はこの国でエジプト王のためにとてもいっしょうけんめいはたらいていました。ヘブル人は町を建てるためにセメントやレンガを作ったり，王が命じたことは何でもしてはたらいたのです。しかし王はヘブル人たちの中にかんとくをおくり，もっともっとはたらくようにせきたてました。そこでヘブル人たちは神さまにエジプト人たちのとらわれの身から救って下さるように祈りました。

3カ月前にミリアムの弟が生まれたとき，おかあさんのヨケベデとおとうさんのアムラムはこのことをかくしていました。とてもとてもかわいい赤ちゃんだったのです。どうしてこの赤ちゃんをエジプト人の手にわたして，川の中にほおりこませることができるでしょう。

そこでおかあさんは水辺にはえる草でかごをつくり，その内がわと外がわにねばねばしたやにをぬって，水がはいらないようにしました。それがかわくと，おかあさんは中

にやわらかい布をしき，赤ちゃんが寝やすいようにしてやりました。そして夜明け前の暗いうちにかごを川岸のあしの中にかくしておいたのです。ミリアムはかごの近くにかくれ，弟の身の上に起こることを見とどけようとしていました。

急にミリアムは人のわらい声や話し声を耳にしました。それはパロのむすめである王女が，めし使いをつれてナイル川に水あびに来たところでした。

王女は水にうかんでいるふしぎなかごを見つけると，召し使いにそれを取りに行かせました。

王女はかごをあけました。「まあ，なんてかわいい赤ちゃんなんでしょう！この子はヘブル人の子供だわ。」わーんわーんとなき出した赤ちゃんをじっと見つめながら王女はそう言いました。

そこでミリアムはかくれていたところから出て来て，王女にたのみました。「王女さまにかわって世話をするヘブル人の女の人をつれてきましょうか。」

王女がうなずくと，ミリアムは家に走って行って自分のおかあさんをつれて来ました。「私にかわってこの子の世話をしておくれ。お礼はたくさんはらうから」と王女はヨケベデに言いました。

そこでミリアムとおかあさんはその赤ちゃんをかごの中に入れて家につれて帰りました。それからふたりはその赤ちゃんをとてもかわいがって世話をし，その子にヘブル人の神をあがめることを教えました。そうしてその子は成長していきました。

その子が大きくなると，ミリアムのおかあさんはその子を王女のところへつれて行きました。そしてその子は王女の子どもになったのです。王女はその子をモーセと呼びました。王女はそのわけをこのように言いました。

「なぜって，この子は水の中からひろい上げた子ですもの。」

ワライハイエナ

（アフリカの民話）

G・N・ランスダウン／絵：リチャード・ハル

むかしむかしハイエナといぬはとてもなかよしでした。ある日ハイエナが言いました。「ねえきみ，きょうはなんだかかなしそうなかおをしてるよ。どうしたの？」

「ウォーン，ウォーン」といぬはほえました。「ぼくの主人はひどい人で，ぼくをとてもいじめるんだ。たべものはすこししかくれないし，よくぶつんだ。どうしたらいいんだろう？」

ハイエナはしばらくじっとかんがえていました。そしてこう言いました。きみは月に男の人がいるというのを聞いたことがあるかい。こんどまん月のときに見てごらんよ。そうしたら見えるから。その人はとてもしんせつなんだよ。だからきみがこまっていることを話したら，たすけてくれるとおもうんだ。」

いぬはハイエナの話をほんとうだとおもいました。そしてかなしいことやいやなことがあると，いつも月にむかってほえ，月の男の人に話しかけました。

ハイエナはいぬが月にむかってほえているのを聞くと，おかしくてたまりませんでした。それからというもの，ハイエナはそのことをおもいだすたびにわらってしまいました。このときから，このどうぶつはワライハイエナと呼ばれるようになったのです。

滅び去った民族の記念碑

ポール・チーズマン

南メキシコ，グァテマラ，エルサルバドル，ホンジュラスの主要部，コスタリカおよびニカラグアの一部を擁する地域を中央アメリカと呼ぶ。それは古代遺跡が過去の文明の記念碑となっている国土であり，その往時の偉業は，旧世界の他の諸文明と肩を並べる，否凌賀しさえする程のものであるがこれを眠らせている地域である。

「私たちの宗教のかなめ石」であるモルモン経が中央アメリカの一部古代原住民についての記録であることから，新世界におけるこの地域の遺跡や美術品は，末日聖徒を特に魅了している。

神秘と興奮の一種独特な雰囲気が，これらのあまり知られていない人々のくずれかけた記念碑に漂っている。私たちは末日聖徒として，その雰囲気に格別敏感であるが，おそらくそれは，モルモン経に登場する人々とつながるものがそこにとても多くあることを鋭敏に察知するからであろう。例えば，バプテスマなどの宗教上の慣習，髭を生やした白い神を信仰していること，驚嘆すべき建築学上の功績，農業の発達，精巧な美術品や工芸品，金その他の金属で作った美しい細工といったようなものがあるからである。

推測にすぎないのだろうか？　確かに，推測である。怪しげな理論が数多く横行している。だが，現存するこのコロンブス以前の諸文化の遺跡群はいつの日か系統だてられて，モルモン経に登場する人々に関して私たちの理解を増し加えてくれるだろう。

しかしながら，この遺跡群が単に過去を解き明かす鍵であるだけではなく，現代メキシコおよび中央アメリカにおける私たちの兄弟たちを理解する上でも役立つことを思い起こすべきであろう。これら古代の建造物は，畏敬すべき祖先から現代の子孫に伝えられた遺産なのである。現代の子孫はそのように光栄ある遺産に畏敬の念と高い徳を覚え，そして湧き起こる誇りを感ぜずにはいられないだろう。これら現代の子孫の言語，伝承および文化の多くは，遠い過去に，過ぎ去った時代の最後の砦と固く結ばれた過去に，その根源があるのである。

たゆみない考古学の探究は，今日これらの国々に住む兄弟姉妹に対する私たちの理解を確実に広げてくれる。私たちが遂に遺跡そのものの神秘を解き明かし，その完全な意味を発見するかもしれないことをだれが知ろうか。

次に掲げる写真は，私が広く収集したものの中から選んだものであるが，これらの滅び去った民族の記念碑に漂う神秘と消えゆく荘厳さを共に捕えている。

コパン　コパンはユカタン半島南部にある第二の古代の大都市で，古代原住民にとっては偉大な学問の府だったと見なされている。紀元後176年頃の都市と推定される。広場に見られる精巧に彫刻を施こした祭壇や石柱は，当時の偉大な彫刻家たちの功績を物語っている。壮麗な象形文字の階段は幅約

コパン

10メートルで62段あり，1,500から2,000個の象形文字を擁している。研究者は，月食から月食までの期間の正確な時間は，ここで最初に測定されたと確信している。偉大な天文学者や数学者が，占星術によって人々の生活を律していたとも考えられている。

テオティワカン　メキシコ市の北東30マイルにあるテオティワカンは実に様々な遺跡が残っている場所である。それぞれの遺跡にはまちまちな年代が推定されているが，紀元前3,000年頃モルモン経の時代に建造されたと思われる。今日残る最大の建築物は太陽のピラミッドであり，附近には12の祭壇建築がある。このピラミッドに覆われた面積は，エジプトのケオプスの巨大なピラミッドに覆われた面積よりも広い。広場，市場，公共の建物，他に多くの住民がいまだ残存していて，セメントの道路が地下の排水渠を覆っている。

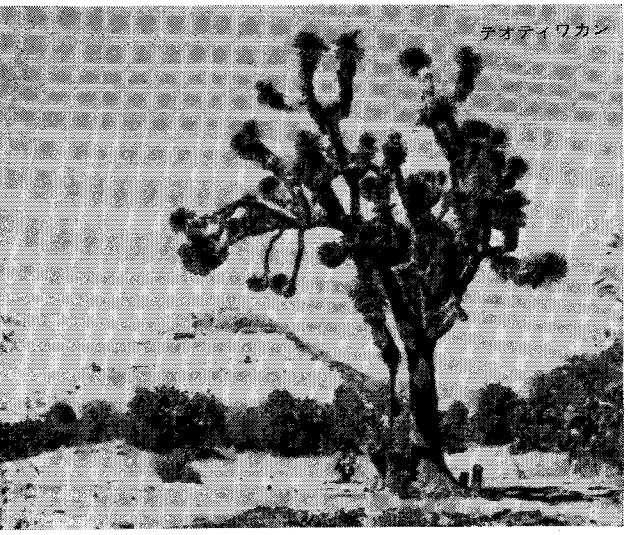
壁はしっくいを塗ってあったり壁画で飾ったりしてある。この美しい都市のアズテック語の名前テオティワカンとは，「神々の住み給う所」という意味である。

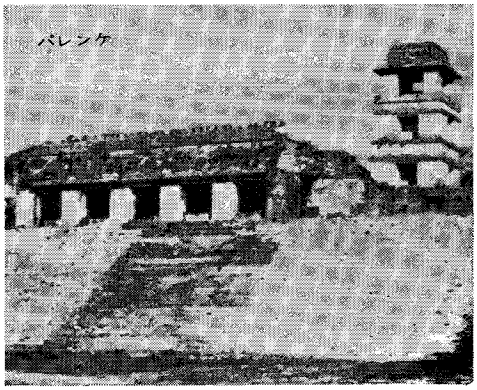
モンテ　アルバン　メキシコ市の南東200マイル，メキシコの近代都市オアハカを見おろす，約310メートルの丘の頂にそびえる建築物よりも美しいものを見つけ出そうとするのは困難である。救い主生誕の800年前に建設された古代都市モンテ　アルバンは，今日もまだ建っている。金細工，宝石，宝玉の品々，金銀の腕輪，金冠，優美な半透明の壺，その他多くの精巧な美術品が，この古代都市から発掘されている。

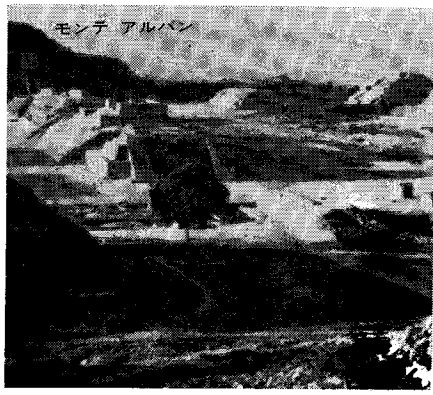
ラ　ベンタ　南メキシコのラ　ベンタのいわゆるオルメカ文化は，だいたい紀元前800年頃のものとされている。あちこちに突き立っている玄武岩の巨大な人頭の彫刻は，これらの人々の手に成るもので，貴人の肖像だと一部の学者は考えている。この未知の民族は美術におけると同様，土木の才能にも並々ならぬものがあったに違いない。というのは，この巨大な彫刻の材料は，ラ　ベンタの北西トウストラ山脈から55マイル以上もひかれてきたはずだからである。測ってみるとものによっては高さ約3メートルもあるどっしりとした頭部は，古代アメリカ芸術の偉業のひとつであるが，その機能や目的は神秘に包まれている。

後の時代にラ　ベンタは，明らかにケツァルコアトルの崇拝で遠方からも近隣からも人々を引きつけていたが，ここにキリスト生誕の5世紀前，十字架が石の壁に刻まれたのである。

パレンケ　パレンケの遺跡はメキシコのビヤエルモサの東方


テオティワカン


パレンケ


モンテ　アルバン

ティカル

草木が繁茂する山腹の影に横たわっている。四階建の塔が遺跡群の上にそびえ立っていて，地平面から頂上に向かい，ひと続きの階段が延びている。これは，天文台と望楼を兼ね備えていたと思われる。この塔の近くの地平面下に造られた「碑文の神殿」の内側には，7世紀の貴人の遺体を納めた石棺があってその蓋の表面に十字架の形に彫られた命の木の勲章が現われている。主の誕生以前にさかのぼる壮大な文明の遺産とその遺跡は，未知の建設者たちの神秘的な記念碑でもある。

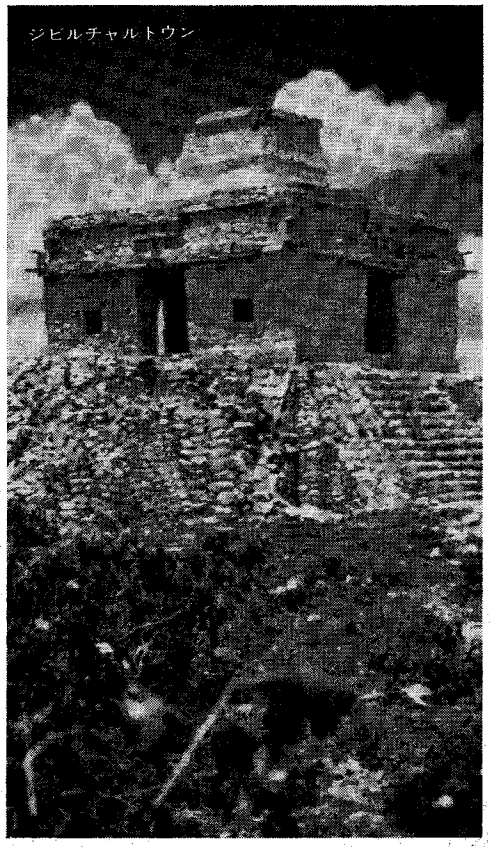
ティカル　巨大な遺跡ティカルは，英領ホンジュラスの国境に近いグァテマラにある。この熱帯の考古学の宝庫には，800以上の石碑を始め寺院，宮殿，神殿，犠牲の祭壇，儀式壇，住居，球戯場，高台，歩道，浴場など3,000を越す個々別々の建築物がある。1万点以上の儀式の用具，器具，私有の装飾品，その他の品々が発見されている。ティカルの建物の年代は，はるか紀元前600年にまでさかのぼるようである。ここに掲載したのは，遺跡群の中の一番大きな建造物ではないが，中央広場では一番重要な「ジャガーの神殿」である。

クイクイルコ　イエス生誕をさかのぼる少し前，クイクイルコの楕円形のピラミッドがメキシコ市周辺に建てられた。この遺跡は実際には高さ約24メートル，直径約118メートルの円錐形に磨損してしまっており，頂上は勾配と階段で結合される4つの部分からできていて，原形のおおよその面積をとどめているにすぎない。キリスト教時代が到来を告げるまでに大激変が起こり，クイクイルコ一帯を廃虚と化してしまった。附近の小さなシトルという，外見は大したことのない火山が爆発し，クイクイルコの建物のみならず，今日ペドレガル（石だらけの土地）と呼ばれるメキシコ渓谷南西部に至る広大な地域までも熔岩で覆ってしまったのである。

ジビルチャルトゥン　メキシコのユカタン半島，メリダ市の北，海のすぐ近くにジビルチャルトゥンの遺跡が20平方マイルにわたって広がっている。この都市は，広大な地域における商業の中心地であったと思われる。居住地の高度からみて最初の住人は，紀元前2,000年頃ではないかと思われるが，この地はスペイン人が征服するまでずっと人々が住んでいたらしい。数千年にわたって作られては棄てられ壊れた陶器が，続々と土台や壁の中から発見されている。

チーズマン博士は，ブリガム・ヤング大学でモルモン経研究計画の主任をしており，これまで20回以上も中央アメリカや南アメリカへ遺跡研究のために旅行している。

ラ ベンダ



ジビルチャルトウン

クイクイルコ

契約を守る者

メアリー・プラット・パリッシュ

はるかかなたのウクライナでは，オオカミの大群がその地方をうろつきまわり，遠くから旅をして来た旅人は夜になると身を守らなくてはならなかった。それで旅人たちは大きなたき火をたいてオオカミを防ぐのであった。火が赤々と燃えている間は，オオカミはテントから遠く隠れていたが，消えると襲って来た。野営している一行の運命は火をたく責任を受け持つ人の手にかかっていた。

霊的な意味で，狡猾なオオカミがテントを襲って，人々を滅ぼそうとあたりをうろついている。その危険から身を守るため，主は子供の心に信仰の火を赤々とともす責任を，イスラエルの母親たちに託された。イスラエルの母親は契約の守り手である。母親たちがこの信任に答えるならば，その民は選ばれた民——王なる祭司——となるという主の約束が幾世代にもわたり事実となってあらわれるだろう。しかしもし責任を怠るなら，「オオカミ」が襲って来て，契約の祝福は失われてしまうだろう。

この契約は，背教が支配していた時代の族長アブラハムに端を発している。そのような時勢にありながらもアブラハムと妻のサラは，主が高貴な家柄——新しい種族——を起こしたもうための器となった。この種族を通じて，神の王なる祭司の主権が世の終りまで続くこととなったのである。

さらに主はアブラハムの子孫を浜の砂，天の星のように増

やそうと契約を交わされた。しかし24年待っても，アブラハムには子供が生まれなかった。サラは75歳のとき，子供を産めない年になったことを知って，アブラハムに約束されたものを受け継ぐ子孫が恵まれるよう，自分の奴隷を差し出した。しかし，契約の民の母親を選ぶ特権はサラにもアブラハムにもなく主御自身のものであり，主はサラを選ばれたのであった。

それならば，主はなぜ38年間もサラに子供を授けられなかったのだろうか。その説明は聖典の中に出ていないが，おそらくサラは母親という大きなつとめを果たすだけの用意ができていなかったためだろう。それでさまざまな辛苦や経験を味わって信仰を強くされたのではないかと思われる。私たちは，サラが背教の民のただ中に生まれ育ったことを心にとめなければならない。民は先祖ノアの神をないがしろにして偶像崇拝に陥っていた。サラはそのような生活しか見ていなかった。父も祖父も偶像を崇拝する人であった。ただ叔父にあたるアブラハムだけが唯一の真の神を拝んでいた。彼ひとりが不信仰の時代の波に逆らって自分の信条を守っていたのである。私たちは，サラがアブラハムの神を知って理解するようになったと確信することができる。なぜならアブラハムは偶像崇拝をする女とは結婚しなかったに違いないからであり，その彼がサラを妻にしたからである。

しかし，サラは信仰を保つことができるだろうか。契約の民の母となることは神聖な尊い召しである。サラは，世の基が置かれる以前から，地上に高貴な主の種族を築く大切な鎖のひとつとして選ばれた，高貴にして偉大な霊を生もうとしていた。その高貴にして偉大な霊は，偶像崇拝の異教の地に生まれ，あらゆる悪にさらされることであろう。唯一の真の神に対するその子の信仰は，母親に大きく影響されるに違いない。その子は母親から，主がアブラハムと交わされた契約のことを学ぶのである。自分がその契約の継承者として選ばれたことを知らされ，自分がどれほど契約を尊ぶかによって，将来子孫がこの契約を大事にするかどうかが決まることを学ぶのである。

その意味で，サラは契約の守り手であった。契約の将来は彼女の手中にあったと言える。彼女はどんな状況下にあっても，決して生まれ故郷の偶像崇拝に戻ってはならなかった。

彼女を訪れた最初の試練は，なつかしく大切なものをみなあとにしてアブラハムに従い，ほこりまみれのキャラバン隊に加わって，主が導いて下さるというアブラハムの言葉だけを頼りに未知の国へ向かうことであった。サラがその試みに耐えたと思うと，すぐに次の試練がやってきた。目的地に着くと，そこは期待していたような乳と蜜の流れる土地ではなく，生活していくこともむずかしいような荒涼とした所であった。しかしサラには信仰があったので，つぶやきもせずアブラハムと共にエジプトへ行った。そこではアブラハムの妹になりすますようにという主の命令に少しの疑念もはさまず従ったのであった。そのためサラはパロの家に連れていかれ故郷とそっくりの環境に放り込まれた。アブラハムの神を知る者がエジプトにひとりもいなかったからである。

偶像崇拝者たちにとりかこまれて王の客となったとき，もしサラがエホバへの信仰をひるがえそうとするならば，正にこのときであった。しかしサラはそうはしなかった。サラは貞淑な妻であったばかりか，唯一の真の神を真心から礼拝し，王の宮廷にあふれる数多くの悪から守って下さる神の御手を感謝したのであった。

主がアブラハムに子供を約束されたときから，サラは自分を通して実現される約束を待ちわびていた。この約束は子供を生めない年になってからも彼女を支えていた。落胆したサラは主のみこころを信頼して，自分の子供を得るという望みをすべて捨てた。心にずっと慈しんできた最大の望みを，信仰の祭壇に捧げたのである。そしてアブラハムに，他の女性を約束の継承者の母とするように勧めたのである。

サラは今や，祝福を受ける用意が整っていた。そしてその

祝福はイサクであった。主はアブラハムにサラが身ごもることを告げると共に，彼女に「女王」の称号を授け，契約の民の子孫がすべて彼女を母と呼ぶだろうと告げられた。（創世17：15，16参照）サラは90歳の身で「年老いていたが，種を宿す力を与えられた。約束をなさったかたは真実であると，信じていたからである。」（ヘブル11：11）

イサクについて，主は「彼と契約を立てて，後の子孫のために永遠の契約としよう」と言われた。（創世17：19）イサクの妻リベカは主から選ばれて，母親となる祝福を受けるまで20年間試された。それから彼女は双生児のエサウと弟ヤコブを生んだ。

ふたりの子供がまだおなかの中にいる間に，主は，当時の慣習に反して「兄は弟に仕えるであろう」とリベカに啓示された。（創世25：23）彼女はそれを知って，神から与えられた契約の継承権がヤコブに行くように配慮した。イサクがその祝福を，すでに家督権をヤコブに売り，ふたりのカナンの女と結婚して面目を失っていたエサウに与えるつもりなのを知ったリベカはそれをさえぎってエサウの代りにヤコブを立てたのである。

ヤコブが「祝福を受けず，かえってのろいを受けるでしょう」と異議をはさむと，リベカは「あなたがうけるのろいはわたしが受けます」と答えている。（創世27：12，13）リベカは契約が正統でない相続人の手にわたるのを見るくらいなら，むしろ自分の行ないの結果をたとえどんなものであろうと喜んで受けようとしたのである。彼女は立派な契約の守護者であった。

ことの次第を知ったイサクは，祝福をすでにヤコブに与えてしまったとエサウに言い，さらに「彼が祝福を得るであろう」とつけ加えた。（創世 27：33）そのことは，イサクの口から出た言葉はイサクのものではなく主の言葉であり，彼らはそれを変えることができないことを示している。

のちに主はヤコブとも彼の父や祖父と契約したときと同じ

く，契約を交わされた。こうしてリベカは，自分の義務を遂行して罪なしとされたことをはっきり知ったのであった。

リベカについては，ヤコブを兄ラバンの所へやり，兄の親類の間から妻をみつけるようイサクに勧めたこと以外にあまり知られていない。もっともその直接的な理由は，エサウがヤコブを殺そうとしており，家を離れなければ殺されてしまうからであった。

ヤコブはラバンのふたりの娘，レアおよびラケルと結婚した。レアはラケルが自分の子を生む前に，6人の息子とひとりの娘を生んでいた。サラやリベカと同様に，ラケルは子供に恵まれるまで長い年月を待たなければならなかった。彼女は「わたしに子どもをください。さもないと，わたしは死にます」と叫んでいる。(創世 30：1）「次に神はラケルを心にとめられ，彼女の願いを聞き，その胎を開かれた」(創世 30：22）その子がヨセフであった。

子を宿すまでの長い年月に，主はラケルに，ヨセフを教え，主の道に沿って育てるという重い責任に耐えられるよう用意をさせられたと思われる。ヨセフが信仰を守り抜くには，立派に教え育てられなくてはならなかった。なぜなら，彼は人生の大部分を異教の国の悪影響にさらされるはずだったからである。

ラケルは決して失敗することは許されなかった。実際彼女はその責任を立派に果たし，ヨセフは義の戦士となり，神と民に忠実な，徳と許しと柔和に富んだ高貴な人物となったのである。彼はすばらしい母親が誇りにできる誉れであった。父の子のうちでは下から2番目でありながら，息子エフライムに家督権がわたされたので，家督権はヨセフに帰したからである。

しかしラケルは，ヨセフの輝かしい将来を知らずに死んでいった。彼女は弟ベニヤミンを生んでまもなく，ヨセフが死んだものと嘆きつつ世を去っている。

モーセの母ヨケベデの役目もラケルに似ている。ヨケベデの息子もエジプトの宮廷に育っている。赤ん坊のときに拾われ，パロの娘に育てられたからである。しかし試しのときが来ると，モーセは圧制に苦しむイスラエル人のために，住みなれた家，パロの宮廷とエジプトの国を捨てたのである。

母親が，乳母として雇われていたほんの短い年月にモーセに教えたことは，彼の意識のうちに深くしみ込んでいた。それでモーセは，唯一の真の神がおられ，イスラエルの民が主の力を行使する器として特別な民になると契約されていることを，忘れることができなかったのである。その真理に比べれば，エジプト人の教師から受けたすべての教えは，無に等しいものであった。ヨケベデが本当のイスラエルの解放者だったと言うことができる。それは彼女がもしモーセを教えていなかったら，解放は行なわれていなかったに違いないからである。

これまで述べたように古代イスラエルの多くの母親が，契約の守り手のつとめを忠実に誠実に果たしてきたが，そうではない人も大勢いた。最終的には大多数の人々が守護の手をゆるめて偶像崇拝の諸悪を家庭や社会に招き入れることになった。王アハブはバアルを崇拝するイゼベルと結婚し，彼女が契約の守護者たち以上に熱狂的であったので，国全体が彼女の策略に屈し，木石の偶像を拝するようになった。

民は「律法にそむき，定めを犯し，とこしえの契約を破った」。(イザヤ24：5）そのため，契約はもはや効力を失ってしまった。その結果，主は民からみたまを取りあげ，彼らを荒廃するにまかされ，民はさまよう者，外国に寄留する者となった。契約の守り手が主なる神への信仰を保てなかったことの悲しい証として，主はその民を地の国々の間に散らされたのである。

今日，主はあらゆる地方，あらゆる国から主の民を集めておられる。家督権を持つ支族の母たちは，再び契約の守護者の特権を受けているのである。今度は，決して失敗してはならないのである。

家庭の族長制度

ブレント・A・バーロウ

使徒パウロは勧告した。「妻たる者よ。……自分の夫に仕えなさい。」（エペソ５：22，コロサイ３：18参照）また，「夫は妻のかしらである。」（エペソ５：23）とも教えた。さらに主はエデンの園のイヴに，「あなたは夫を慕い，彼はあなたを治めるであろう」（創世３：16）と告げられた。

末日聖徒の中でも，妻もしくは母親が家庭を治める責任のほとんどを引き受けなくてはならない場合も確かにある。それは例えば父親が死んだか離婚したかで母親だけのとき，あるいは病気やけがで働けないときであろう。しかし，父母両方がいる末日聖徒の家庭についてはどうであろうか。末日聖徒の夫と妻，特に夫が神権者である場合の夫婦の関係はどうあるべきであろうか。

1902年，ジョセフ・F・スミス大管長は，第６代大管長になったすぐあと，次のように述べた。

「家族という組織に関して，特にこの組織が大神権者によって管理されるとき父親以上に高い管理役員はいない。権威は尊重されねばならない。あらゆる神権時代の神の民の間において，神の霊感を受ける予言者たちは権威を敬い強調して教えを説いて来た。族長制度はその起源を神に持ち，今も永世にも存続するであろう。ここに，男女，子供がこの制度と神の民の群におけるこの権威を理解し，神の子らが最高の昇栄に至る条件であり備えであるこの権威を神の意図されたように用いなければならない理由がある。家庭の管理権は常に父親に与えられている。家事や家族の事柄に関してこれ以上の権威はない。」

この教えは，現代の末日聖徒の結婚や家庭にあてはまらないだろうか。族長制度は末日聖徒の家庭でどのような役割を果たすのかについて，すぐに質問が出る。この原則が確かなこととそれをどう生かすべきかについては，念入りな評価が必要である。

どんな事柄において，末日聖徒の夫は妻の「かしら」として行動するのだろうか。婦人はいつもすべてのことで夫に「仕え」なくてはならないのだろうか。妻は自分の結婚生活や家族のことで決定を要するときに，何かの役割を果たすだろうか。族長は，絶対の力を持ち，時には横暴なやり方で統治する専制君主と同じだろうか。

はじめに，末日聖徒の夫あるいは父親は監督やステーキ部長や長老定員会会長が役職にあって管理するのと全く同じように，妻や家族を管理すると言っておこう。みな副監督，副ステーキ部長，副会長と共に行動し，顧問として召した副会長に相談せずに大切な決定をすることはほとんどない。顧問の助言が管理者の正しい決定に役立つことは多い。

副会長はその指導者が留守のとき，

あるいはいても彼の管理のもとで指名されて司会をすることがある。同様にスミス大管長の言葉によれば「家庭の管理権は常に父親に与えられている」のである。大管長は続いてその理由を説明している。

「この族長制度は神聖な精神と目的を有している。口実をつけてこれを無視する者は，家庭内で尊ぶよう定められた神の律法の精神に沿わない。これはだれが常に非常にすばらしいかという問題ではない。まただれが最もふさわしい生活を送っているかという問題でもない。主として律法と秩序の問題である。人が権威を用いるのに全くふさわしくないにもかかわらず，権威が依然として残り，敬われているという事実を重視する必要がある。」

例えばあなたのワード部にふたりの監督が任命されて，はじめの人が聖餐会で，翌週の日曜日の聖餐会は1時間早く始めると発表した場合の混乱を想像してみなさい。彼が発表している間に2番目の監督が立ち，聖餐会はいつもの時刻に始めたいと言ったとする。ふたりが管理していて民主的原則が働くであろうか。ステーキ部長がふたり，長老定員会会長がふたり，日曜学校会長がふたり，扶助協会会長，初等協会会長がふたり，定員会や補助組織やグループにいる場合のことを考えてみなさい。教会はどのようにして動くだろうか。「法と秩序」は行き渡るだろうか。同じように，特にひとりが神権者

家庭の族長制度

として管理権を神から託されている場合に，夫婦両方でどうしてお互いや子供たちを管理してよいものだろうか。

家庭とワード部の管理の類似点は，パウロの教えを学べばさらによく理解できる。彼は，監督に聖任される人は結婚していて，「自分の家をよく治め，謹厳であって，子供たちを従順な者に育てている人でなければならない」（Ｉテモテ３：４），さらに「その子たちも不品行のうわさをたてられず，親不孝をしない信者でなくてはならない」（テトス１：６）と教えている。

第一の責任，すなわち妻と家庭を管理する能力を証明してこそ，人は神権の第二の管理の職を引き受けることができる。パウロはその理由を「自分の家を治めることも心得ていない人が，どうして神の教会を預かることができようか」（Ｉテモテ３：５）と語っている。

パウロは族長制度について，「この奥義は大きい」（エペソ５：32）と述べている。この奥義は妻が夫に服従するのではなく，夫が妻と家族を治め，共に作用し合うやり方であろう。スミス大管長は語っている。

「この権威は責任と重大な権利とを伴う。人はその生活で模範を示しすぎるということはない。また家族という

組織においてこの重要で神が定められた行動規範に沿って生活するよう注意しすぎるということもない。」

使徒パウロは力説している。「夫たる者よ。キリストが教会を愛してそのためにご自身をささげられたように，妻を愛しなさい。……それと同じく，夫も自分の妻を，自分のからだのように愛さねばならない。自分の妻を愛する者は，自分自身を愛するのである。自分自身を憎んだ者は，いまだかつてひとりもいない。かえってキリストが教会になさったようにして，おのれを育て養うのが常である。……あなたがたは，それぞれ，自分の妻を自分自身のように愛しなさい。妻もまた夫を敬いなさい。」（エペソ５：25，28，29，33）

近代の啓示は，神権者として特に妻や家族をいかに管理するかを知る手がかりを与えている。

「如何なる権力も勢力も，神権によりて維持する能わず，または維持すべきものにあらず，ただ説服と堅忍と柔和と温情と偽らざる愛とによる。また，親切と浄き知識すなわち偽善にあらず奸智にあらずしてその人を甚だ大いならしむるものによる。すなわち，聖霊に感動しては機に臨みて激しく人を責む。然る後，また彼の汝を敵視せざらんために責めたるその人に一層の愛を示す。

……神権の権能は天の能力と固く結びつきて離るべからざるものにして，天の能力は正義の原則によりてのみ支配し運用し得るものなり，と。この権能のわれらに与えらるる事もあらんは真実なり。されどもし己が罪を蔽いかくさんとし，われらの高慢，空しき野望を充たさんと企て，または幾分にても正しからざることによりて人の子らを支配し，統御し，強制せんとする時は，見よ諸天は退き去り，主の『みたま』悲しむ。主の『みたま』退き去らば，神権またはその人の権威は終りなり。

われら悲しむべき経験によりこの事を知る。およそ殆んどすべての人間は少し許りの権威を得たりと思うや，忽ち正しからざる支配を始めんとする生れつきの性癖あり。

……絶えず徳を以て汝の想を飾るべし。然る時は，汝の自ら信ずること神の前に強くなりて，神権の教理は天より下る露の如くに汝をうるおさん。聖霊は常に汝の伴侶となり，汝の笏は真理と正義の変ることなき笏となり，汝の支配は永遠の支配となりて強いらるることなく永遠に汝に流れ込まん。」（教義と聖約 121：36，37，39，41―43，45，46）

末日聖徒の家庭の族長制度を確立することにより，夫婦関係が良くなると共に親子関係も向上する。妻が夫の権威，権能，決定を自分で行使しようと求めるとき，子供もそれを求めるのが当然のなりゆきではないだろうか。またそのようなとき，子供は父の権利だけでなく，自分の人生に影響する決定の権利を両親に要求するのではないだろうか。米国結婚および家族問題協会幹事，エドワード・J・リドマン博士は述べている。

「現在，科学的証明はほとんどなされていないが，ここ数カ月間に，青少年の反抗が論点となって平等主義の修正が取りざたされている。新たな手段で，かつてなく大勢の青少年が，今，教育，結婚，性の表現，そのほか人生の大切な事柄に自分の意見を通そうとしている。女性が男性の権威を要求するように，若者は家族の権威，その他関連するあらゆる公的機関の権威を自分に要求している。」

末日聖徒の親たちは，危機をはらむ時代に直面していると言える。私たちは子供にキリストに対する信仰，悔改め，バプテスマ，聖霊の賜を授かる按手礼などの福音の原則を教えよと戒められている。すなわち「両親はその子

家庭の族長制度

供たちに祈ることと，主の前に正しく歩むこととを教えざるべからず。」（教義と聖約68：28）これらのことに失敗するならば，その当然の結果を招くであろう。

パウロも，「終りの時には，苦難の時代が来る。その時，人々（子供たち）は……親に逆らう者，恩を知らぬ者，神聖を汚す者……となるであろう」（Ⅱテモテ３：１―２）と教えた。末日聖徒の家族が「逆らう」末の時代に世に染まらずに毅然として立つには，私たちの家庭を治め，維持する諸原則をよく学ぶ必要がある。

主は古代イスラエル人に，「あなたの父と母を敬え」（出エジプト20：12）と，単に口先だけではなく，まず母が家の長としての父を敬い，父は母を敬うことによって示すべきひとつの原則を命じられた。

夫と妻が互いに尊敬を示すとき，結果として子供は両親を敬うことを教えられる。スミス大管長によれば，父母を敬えとの戒めは現在の教会員全員に与えられている。なぜならこの律法は永遠だからである。

両親や教師も，結婚の用意をしている末日聖徒に対して大切な責任を負っている。パウロは「若い女たちに，夫を愛し，子供を愛し，慎み深く，純潔で，家事に努め，善良で，自分の夫に従順であるように教える」ことを勧めた。（テトス２：４，５）また，「若い女は結婚して子供を産み，家をおさめ，そして，反対者にそしられるすきを作らないようにしてほしい」と言った。（欽定訳Ⅰテモテ５：14）

パウロは同じように若い男性にも，「万事につけ慎み深くあるように，あなた自身を良いわざの模範として示し，人を教える場合には，清廉と謹厳とをもってし，非難のない健全な言葉を用いなさい」と勧めた。（テトス２：６―８）

末日聖徒の若い男性は結婚生活の族長制度を理解することにより，彼の管理のしかたをよく理解する妻を選ぶことができるであろう。逆に末日聖徒の若い女性は，「正しからざる支配」をせず，彼女のことをよく理解し，子供たちの従順とはどういうものかを理解する夫を上手に選ぶことができるであろう。末日聖徒の結婚生活，家庭生活が族長制度以外の方法で営まれることは，先に述べたように「家庭内で尊ぶように定められた神の律法の精神に沿わない。」

族長制度が結婚生活において教会指導者や聖典に記された通りに実践されるならば，末日聖徒の夫婦はより幸福でより確固とした，満足のいく結婚生活を経験するであろう。さらにそのような関係の中で，子供の養育に大切な指針を生かすことができる。スミス大管長はこう勧告した。

「妻と子供は神の王国における族長制度が賢明な目的のために確立されたことを教えられるべきであり，家長を支持し，家長がその義務を果たすにあたって励ましを与え，神が家庭の長に与えられた権利と特権を家長が行使するにあたり全力を尽くして助けなければならない。

……族長制度と家族の権威を組織する必要は，その権威を持つ人と同様原則に基づいている。末日聖徒は族長の律法に基づいて家族をしつけるべきである。そうすれば，今日ふさわしくない子供たちによりその立場を危くされている多くの問題をなくすことができるであろう。」

注

1．ジョセフ・F・スミス，「福音の教義Ⅱ」P.20，21
2．同上　P.21
3．同上　P.21
4．エドワード・J・リドマン，「結婚カウンセリングの手引き（英文）」序文
5．スミス，「福音の教義Ⅱ」P.21，22

ジョージ・アルバート・スミス
手を差し伸べる人

アーサー・R・バセット

私たちのほとんどは，自分を真心から愛し，その愛の上手な表わし方を心得ている人々にあうと，逆らうすべを知らない。そのような人が自分を大事に思ってくれていると知っているため，自分にとってその人は大切になる。

このような愛を持つ人は，残念なことに非常に少ない。それは，他人に対する純粋な関心が2，3の秘訣によって開発される才能ではなく，心と心の自然な結びつきだからである。このような愛は，人にその人自身のことや趣味について語らせる以上のことである。なぜなら，人間関係をひとたび意識すると，人とのすべての交わりに生命の息を吹き込む自然さが失われるからである。

人間関係の授業でテクニックを学ぶ人は多い。しかし私たちは，正直な心で他人のためを思う深い心を養う必要がある。

現代の若者は，人を理解するよりも上手に扱おうとしがちなにせ物のテクニックに反抗している。現代の若者は真実を，真心からの関心を，そして意義深い人間関係を求めている。それらの性質すべてをあわせ持った偉大な人が，第8代大管長ジョージ・アルバート・スミスである。

スミス大管長は人々を愛し，人々は彼の純粋な関心を感じたため，彼は教会内外の人々から愛し尊敬された。英国の小説家ビバリー・ニコルズは，あるとき，アメリカの生活様式を研究しようとアメリカ国内を旅行した。そしてのちに「アンクル・サムソン」という，アメリカ人の生活を手きびしく皮肉ったユーモア小説を著わした。その中の1章にはソルトレーク市の訪問について記されている。彼は初めて末日聖徒社会の生活を目にする他の多くの人と同様に，おもしろいことを多く発見した。しかしジョージ・アルバート・スミス大管長との会見は異なっていた。彼は，「私がこれまでに，正直で廉直で神を畏れる人に出会ったとするなら，スミス大管長こそ正にその人である」と書いている。

興味深いことがスミス大管長の葬儀のときに起こった。葬儀ではひとりの非教会員に弔辞を頼んでいたが，フィッツパトリックというその人が，スミス大管長について，教会外の人々の感情を実に簡単に言い表わしたのである。

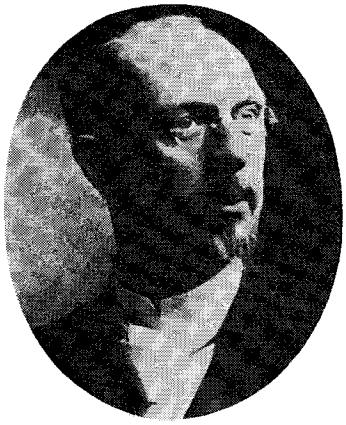
「彼は悪心のない宗教人で，教会のみならず，すべての社会の霊的指導者でした。彼といるだけで，皆様は彼の霊性を感じられたことでしょう。

彼は兄弟愛，言い換えれば，彼が全人類に対して抱いていた清い愛について話すのが好きでした。それは教義の違いを越えた深いキリストのまことの愛であり，人の心をより豊かに深く理解する天よりの賜です。」

スミス大管長とサイン

J・ルーベン・クラーク副管長は，ジョージ・アルバート・スミス大管長

若きジョージ・アルバート・スミスは，ＺＣＭＩの南部ユタおよび南東ネバダ担当セールスマンを勤めた



左上：1893年頃南部諸州での最初の伝道を終えたスミス長老

上　：1919年12月ヨーロッパ伝道部長に召された

左：ヨーロッパ伝道部長当時の写真

と共に大管長会で働き，彼をよく知っていた人として，この葬儀のときに話をした。

「私は教会員に一言述べたいと思います。皆さんは，この職にあっておそらくは最も偉大な指導者を失いました。私は，ジョージ・アルバート・スミス大管長ほどに人を愛する心を持った人は，この教会にいなかったと思います。」

スミス大管長は幼いときに，立派な人間はいつも困っている人のために時間をとることを学んだ。わずか５歳のときに，母親は彼を黒のベルベットのスーツに正装させて，ブリガム・ヤングに会いに行かせた。彼は，オグデンに行く鉄道切符を何枚か手に入れるのに，ヤング大管長の助力を願う手紙を携えていた。スミス姉妹の夫は英国で伝道していたため，自分で切符が買えないほど貧しかったのである。

幼いジョージは２丁離れたヤング大管長の事務所へ向かい，当時の教会本部を取り囲む壁にとりつけられた大きな木の門を押しあけた。どっしりとした門が重い鉄のちょうつがいを支点にして開くと，ジョン・スミスという名の大きなスコットランド人が目の前に立ちはだかっていて，「何の用かね」と少年に聞いた。ジョージは心臓が止まるほど恐ろしく思いながら，「ヤング大管長にお会いしたいのです」と返事をした。するとスコットランド人はとどろく声で「ヤング大管長には君なんかに会う時間はないよ」と返答した。スミス大管長が自ら語るところによると，彼はこのときにはもう気を失いかけていたが，ちょうどそのとき事務室の扉があき，ヤング大管長が歩いてきて声をかけた。

「『ジョン，何なのだね。』

ジョンは『小さなお友だちがヤング大管長に会いたいというのです』と言い，大声で笑った。彼はうまい冗談だと思ったのである。しかし，ヤング大管長は世にも謹厳な態度で彼に言った『ジョン，その子を中に入れなさい。』

守衛は，私を中に入れるしかなかった。そしてヤング大管長の立っているポーチへ私をあげた……

ヤング大管長は私の手をとって事務室へ案内し，机にすわると私を膝に乗せ，腕をまわした。そしておよそ想像できる最もやさしい態度で，彼は私に聞いた。『君はヤング大管長に何をしてほしいかな。』

考えてもみたまえ。彼は偉大な教会の大管長，准州知事で，なすべき務めは多い。それにもかかわらず，少年の私は，まるで隣接の州の知事が受ける

ハリー・トルーマン大統領との会見

家族はスミス大管長が生前に受けた数々の賞を大切に保存している

かのような親切と丁重をもって迎えられたのである。」

将来の主の予言者ジョージ・アルバート・スミスが，その事務室からの帰り道にヤング大管長から受けた印象を想像していただきたい。彼は大人になってからもそのときの教えを片時も忘れず，人から何げなく見過ごしにされるような人々のことを常に思いやっていた。

例をあげると，ある大会からの帰途のことである。彼はヒーバー・J・グラント大管長の娘といっしょだった。彼女の話によると，彼は通路の反対側にいる手荷物をたくさんさげた若い親子を見やっていた。そしてこの母親に話しかけ，助けてやる必要を感じたのである。

「すぐにスミス大管長は若い母親に話しかけました。そして私たちの席に戻ってくるとこう言いました。『やはり思った通りでした。あの若いお母さんは長い旅をしているのです。切符を見ました。どうして切符を売った人はもっと旅行しやすい道を知らなかったのだろう。あの切符だとオグデンとシカゴで長く待たされる。私はオグデンでおりて，彼女の切符を，オグデンやシカゴで長く待たなくていい接続の良い切符に換えてもらうように頼んでみます。』」

スミス大管長は汽車が止まるとおりて，交渉をし，若い母親の切符を良い切符に代えてもらった。彼はこのように思いやりのある人であった。

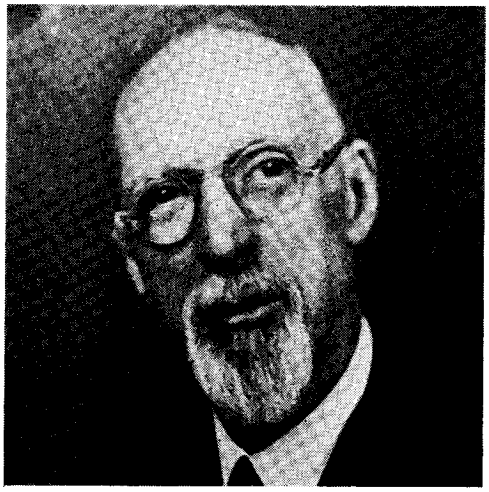
彼はさまざまな人と交わり，彼らの問題を知ることによってこの思いやりを何倍にも深めた。ジョージ・アルバート・スミスは20歳のときに，ＺＣＭＩのセールスマンとして雇われ，歴史にはジムとしか知られていない同僚と共に南部ユタ州をまわった。

ある人は，後に予言者となった彼のさまざまなタイプの人と仲良く交流する才能に強い印象を受けた。彼は時にはハーモニカやギターを奏で，亜鈴体操をしたり，インディアンクラブを振りまわして体格を良くしようと努めた。（時々，幾つかの村で仲間と腕だめしをしたことがあった。）

ユーモアのセンスは，折りにふれて発揮され，人々の心を開くのに役立った。その一例は，ジムが取引き先にわけようとして旅行にウイスキーのびんを持ち込んだときのことである。びんを見つけたとき，知恵の言葉の原則に従っていた彼は当惑した。しかし彼はジムに一言の説教も懲らしめもせず，旅の途中のどこかでいたずらをしようと心に決めた。そのチャンスは，ふたりがソルトレーク市から80キロ南のプロボを出発する前にやってきた。ジョージ・アルバート・スミスはジムが幌馬車から離れた間に，びんを捜し出して，ある友だちのところへひそかに運び，友だちはかねての指示通りウイスキーをあけて水をつめた。それからびんを元の場所に戻した。幾晩かたってジムがびんを持ち出して来て秘密が明らかになった。ウイスキーはなく，びんにはイオウ臭い汚ない水が入っていた。スミス大管長はこの話を愉快がって，自分自身がいたずらされた話とともに，しばしば話の種にしていた。

ジョージ・アルバート・スミスは使徒になる前にふたつの伝道部で働いた。ひとつはユタ南部居留地でＭＩＡ宣教師として，もうひとつは合衆国南部のモルモンに対する迫害がいまだに激しい地での伝道であった。スミス長老はあるとき，暴徒の支配下にある丸木小屋

大管長の家族（左から）
娘エミリー，妻ルーシー・エミリー・ウッドラフ・スミス
息子ジョージ・アルバート・ジュニア
娘エディス



家族の秘蔵するこの写真は，1950年の誕生日に撮られたものである

スミス大管長は豊かでなめらかな声の持主で，よくラジオに出演した。海外にいる軍人は，無線受信機から流れる彼の声に驚かされたという。

に宣教師たちと泊まったことがある。宣教師たちが床の上に伏せると，弾丸が雨のように部屋を貫いた。しかしどのような目にあおうとスミス長老は苦しく感じなかった。堅い決意をもって「福音をまだ知らない神の子たちにわかち与える」ため，さらに働きに励むだけであった。

スミス長老の活動は，一生を通じて教会外の人々との親交を生むこととなった。終りの20年間にも，彼は初の連邦指名を受けて，新しいユタ州の連邦公金受託および委託支払人となった。のちに彼はサンズ・オブ・アメリカンレボリューションやアメリカ・ボーイスカウト，農業国民会議などの国民組織に加わった。

どの場合にも，彼はその組織で国家的な名声を博した。彼はサンズ・オブ・アメリカンレボリューションの副会長となり，アメリカ・ボーイスカウトの管理役員としてアメリカ・スカウト活動の最高賞であるシルバービーバー賞とシルバーバッファロー賞を受け，また国際灌漑農場会議議長を6年間務めた。彼個人の真価は人生のどの働きにおいても認められたが，それは他人のためを思うという彼の人格に負っていた。

それらの経験から派生して，彼は自分の信条と呼ぶものを書き表わした。

「私は友なき人の友となり，貧しい人のために働くことに喜びを見いだそう。」

彼が主の予言者であった時代の興味深いひとつの事柄は，第2次世界大戦の被害を被った教会員に貨物何台分もの物資を送ったことである。彼は教会員に援助が行き渡ると，次に飢餓に苦しむギリシャの非教会員に何トンもの小麦を送った。彼は少年時代に貧困を味わっていて，そのために苦しむ人々を助けようと自分にできるあらゆることをしたのである。彼は人の苦しみを知りながら安らぎを得ることはできなかった。無関心では決していられなかった。

「私は病人や悩む人を見舞い，彼らにいやされる信仰を与えよう。」

ソルトレーク市の病院，その他彼の行く先々では，1日の仕事を終えた後に病気に苦しむ人を見舞っては病院の廊下を歩くスミス大管長の姿がいつも見られた。彼自身も闘病の苦しみを知っていたのである。使徒職在任の初期の4年間近く（1909—1912）病いに倒れた彼は，召しの働きを充分できない状態であった。その10年後，彼は一般大会で話をした。

「私は最近まで死の影の谷を歩いていました。幕の向こう側があまりに近くて，天父の特別な祝福があり，ここにとどまることはきっとないと思いました……向こう側に近よれば近よるだけ，福音が真実であるという確信が強まりました。」

彼はこの病いの教訓を決して忘れなかった。疑いなく数々の教訓は彼の思いやりを深め，彼は「虚弱の度に応じてその民を救う方法を知るために民と同じく虚弱を受けた」のである。（アルマ７：12）

「私は誤った人を捜し求め，義と幸福の人生へ連れ帰ろう。

私は人に自分の理想を強要せず，愛をもって正しい行動へ導こう。

私は民衆と共に生き，彼らが問題を解決して幸福なこの世の人生を送れるように助けよう。

私は高い地位による評判を避け，思慮浅い友人のほめ言葉を意に介すまい。」

高い地位の人にこのような人物がいるとは，心洗われるではないか。1933年に行なわれた総大会で，ジョージ・アルバート・スミスはこのように強調して語った。

「私にとって，イエス・キリストの福音のうちで最もうれしいことのひとつは，私たち全員を同じレベルに置いていることである。日の栄光の最高の位へ昇るためには，ステーキ部長や十二使徒定員会の一員になる必要はない。神の戒めを守る最も謙遜な教会員が日の栄光の人々と並んで昇栄を受けるのである。イエス・キリストの福音のうるわしさは，主の戒めを守る限り，私たちを皆平等にしていることにある。教会の律法を守る限り，私たちは昇栄の機会を平等に得る。信仰と義を増し加えるとき，私たちの光は交わる人々にとって導きとなり祝福として輝く。

私は知りつつ人の気持を傷つけることはしない。たとえ自分に悪い仕打ちをした人でも。そのような人にはかえって良いことをし，友だちにしようと努めよう。

私は利己主義とねたみの心に打ち勝ち，天父のすべての子供の成功を喜ぼう。

私は生けるものの敵になるまい。

人類の贖い主が，私たちを進歩させこの世でも来たる世でも幸福になるための唯一の計画を世に与えたもうたことを知るとき，私はこの真理を広めることを義務のみならず恵まれた特権と感じる。」

ある人々は，このような信条を単に「お定まりのきれいごと」と言う。しかしスミス大管長にとって，それは自分の生き方の焦点であった。

ここに，何かのハンディキャップを感じている若者たちに特に告げたいことがある。スミス大管長の写真を見て左目に注意していただきたい。中央ではなく外側に寄っている。ジョージ・アルバート・スミス大管長は生涯読書にも日常にも，人との応待にもそのハンディキャップを背負っていた。彼は自分のハンディキャップを嘆くかわりに，目を他人に向け，不朽の愛と友情を勝ち得たのである。

人間，問題が何であれ，関心が何であれ，自分を外に向けること，すなわち人を助けることこそ，幸福な人生の秘訣であることを，ジョージ・アルバート・スミス大管長は示したのである。

ジョージ・アルバート・スミスの略歴

（1870—1951）

	年齢	
1870　4月4日	—	ソルトレーク市で出生
1880	10	父が使徒に聖任される
1883	13	ＺＣＭＩオーバーロール工場で働く
1891	21	南部ユタでＹＭＭＩＡのために伝道する
1892	22	ルーシー・エミリー・ウッドラフと結婚
1892—94	22—24	南部諸州で伝道
1898	28	合衆国大統領ウイリアム・マッキンレーにより，合衆国政府ユタ州受託および委託支配人に任ぜられる
1903	23	使徒に聖任される
1909—12	39—42	病気のため職を休む
1916	46	国際灌漑会議議長に選出される
1917	47	国際乾燥農場会議議長に選出される
1919—21	49—51	ヨーロッパ伝道部長
1921	51	ＹＭＭＩＡ中央管理会管理会長に任命される
1922	52	サンズ・オブ・アメリカンレボリューション協会の副会長に選出される
1931	61	アメリカ・ボーイスカウト管理役員に選出される
1938	68	南太平洋各伝道部の訪問
1945	75	大管長に支持される
1951年4月4日	81	死去

私の証

私の改宗

佐世保支部
小野　泉

過ぐる日，我が家に宣教師の訪れがありました。それは昨年4月のある午後のことでした。

ふたりの宣教師の方と長女恵子姉妹は，日曜日に教会に集う約束ができました。そして次の安息日から姉妹は日曜学校に通い始めたのです。彼女は感ずるところがあってか，いろいろな集会によく参加しました。その結果約1カ月位してバプテスマの許可を父親の私に求めてきました。それまで数日間にわたり大変考えた様子でした。私はこの申し出に対して，自由意志には反対しないが，自己の責任において信仰を全うするならバプテスマを受けなさいと許可をしました。彼女は会員となり，前にも増してよく教会に集いました。やがて姉妹は福音のすばらしさを感じたのでしょう。ある日私たちにこう語りかけました。「結果は求めません。自由意志で結構ですから日曜学校に集いませんか。」6月の第一安息日に初めて教会に集う機会に恵まれました。当日は日曜学校，聖餐式，証会と参加し，乱れた時代にもかかわらず福音に生きようとする会員の皆さんの証を聞いて心打たれるものがありました。それで支部長にお願いして，皆さんの前に証ならぬお話をする機会がありました。

神様の偉大な導きがあったあの日のことはいまだに忘れることはできません。それから妻と共に次の日曜日から福音の勉強をすることになり，親子3人で教会に集い始めました。そして多くの皆さんの導きを得て，レッスン約2カ月で夫婦そろってバプテスマの運びとなりました。それは7月30日でした。渡辺伝道部長の按手により聖霊を賜わりアロン神権の職に召され，ほんとうにすばらしく祝福された門出となりました。その後はもちろん福音を求めて日々精進致し，8月中旬には伝道部大会にも参加し霊的境地にひたる機会にも恵まれました。そして証の指名を与えて下さいましたことを感謝致しております。またその後数日を経て祭司の職に召され日曜学校や聖餐式の責任をつとめることになりました。安息日には教会に集い，聖餐を受けて霊的に満たされ，「みたま」を感じて心に喜びをおぼえ，信仰の日々を送りまして今日を迎えています。でもやはり好ましい状態ばかりの連続ではありませんでした。けれども「みたま」を感じ胸に満たされ，豊かな導きを得た喜びはいつの日も忘れることはできませんでした。悔改めの機会を得て日増に真理を知る恵みがありますことを感謝します。神様は神権者にバプテスマを施す機会を与えて下さいました。ほんとうに神権行使の責任の重大さと権能の尊厳さを知ることができました。また神権者として，家庭の父親としての役割を家庭の夕べで学ぶことができ，ほんとうに神権の権能により家庭の祝福ができ，すばらしい末日の家庭ができることを願ってがんばっております。

父なる神様はこの末日近き現世に広く福音を教えられ，これに従う人々をお導きくださいますことを知っています。そして聖霊は私たちの心に喜びを与え，強く正しく生きよと導いてくださいます。すべての人々に祝福を与えてくださいます。この末日の教会は唯一の真の教会であり，父なる神様は生きてましましてこのようにお導きくださることを証申し上げます。アーメン。

私の証

真理を求めて

群馬支部
吉宗ツタノ

私は広島県の中国山脈の頂，芦田川と江戸川の分水嶺にあたる田舎に11人兄弟の7番目として生まれました。父と母とは熱心な仏教信者で，京都西本願寺の信徒でした。私は小学校を卒業して14歳の頃20里ばかり離れた広島市の小学校教員になる学校に入学しました。その寄宿舎の近くに英国婦人ふたりと日本婦人が住んでいました。その方が英語を教えてくださるとのことで友人ふたりと習いに行きました。私たちはリーダー1から英語を教わり，その後で新約聖書をマタイ伝から教えていただきました。だんだん聖書を習い進んで行くうちに「天地はすたれん。されど我が言葉は変わることなし」とあるのを読み，私の心は動かされました。仏教を説いたお釈迦様はこの世に身体を残して死んだけれど，キリストは死んでも3日目にはよみがえったではないか。私はキリストの言われることを信じ，キリストに従っていきたいと思うようになりました。しかしいよいよ決心の段になると三日三晩眠れませんでした。広島の学校を卒業してすぐに小学校の教師の免状をとりました。郷里の小学校に2，3年勤めましたが郷里ではキリストの教会もなく信者はひとりもおりませんでした。私は決心して東京に出ました。東京では仕事のかたわら教会を訪ね歩きました。そして私はどこかの教会にきっと予言

者がいるに違いない，旧約の時代にはいつも予言者がいて神様を信じる者を導いていたけれど，もう主の再臨が近いから必ずや予言者がどこかの教会にいるだろう。そう思っていたのです。そのうちに私は，教員では伝道はむずかしいから，自由職業をなすために歯科医になりたいと思い，歯科医学校に入って勉強を始めました。両親のすねかじりもしないで独力で働きながら歯科の学校も卒業して検定試験もすぐ通り，一人前の歯科医となって東京の日本橋で開業しました。その頃の東京は区画整理でなかなか落ちつけないので，群馬県に引越しました。そして現在の富岡に歯科医を開業しました。その頃キリスト教会では救世軍が一番よく奉仕しておりましたから，私も救世軍に入って集会によく出席し，募金運動などもやりました。

1954年の晩春でありました。いつものように治療室で患者さんを診ていると，玄関に声がしてふたりの青年が立っており，ひとりは外人でした。日本人の方は私に対し，「お宅ではキリストを信じておりますか」と聞きました。私は「はい，キリストを信じております」と申しますと，何という教会ですかと聞きます。「私は救世軍です」と申しますと彼は続いて，「あなたは神様はどんな方だと思いますか」と尋ねますから，「神様は宇宙に満ちている霊の方です」と言うと，「違います。あなたは旧約聖書の創世記を読みましたか」と聞かれました。それで「はい，創世記は読みました」と言うと「人は神の形に似せて造られたとあるではありませんか。ジョセフ・スミスという方は父なる神様とイエス様を見ました」と言って話して下さいました。私は聖書を読みながら長い間まちがっておりました。そのとき初めて目がさめました。続いて三位一体は三位三体である教えも，教会の教えを理解できなかった私にとって，霧が晴れるようにはっきりと理解できました。

それから「私の教会には予言者がおります」と言われましたのでびっくりしました。「長い間の望みであった真実の教会はこれだ。これこそ真実の教会に間違いない。」私はうれしくて泣けて泣けてしかたがありませんでした。それからモルモン経のこと，神様のこと，実に喜びにたえませんでした。三日三晩一睡もできませんでした。

このとき私を完全な救いに導いて下さったのは今井一男長老です。その頃群馬支部に宣教師として支部長を兼任し，富岡まで来て戸別訪問して伝道しておられたのです。私はそのようにして救いに導かれました。完全な救いに導かれたのです。

バプテスマを受けたのはその翌年1955年5月1日でした。今井長老がわざわざ東京からおいでになってバプテスマを施して下さいました。そのとき娘もいっしょでした。娘はまだ10歳でした。

今は娘も歯科医となって私といっしょに働いております。　教会では教師の役をさせていただいております。私はたくさんの子供を育てました。親のない子供また親が育てられないので頼まれた子供です。

娘もだんだん歯科の方も上達してきましたから，私は暇をみて知人に，また道を求めている患者さんに，育てた子供たちに，しっかりした信仰を得させたいと思っております。

私がこの教会に入ったことはこの上ない喜びです。

救世軍にあっても私は救われたと信じておりましたけれど，神権のない人からのバプテスマでは天国の門に入れなかったのです。

今はなき両親先祖まで救われる神の全能なる御計画を知り，ただただ感謝しております。

モルモン経は真の予言者の記録であって，これによって初めて完全な儀式を知ることができるのだと思います。モルモン経に従って実行することによってのみ日の栄に達することができると信じます。

知恵の言葉は完全に実行しております。同業者の会合のときも，私は酒をのまないことが決まっておりますからだれもすすめません。お茶もコーヒーも遠慮してくれます。

什分の一は税金によって収入がはっきりしますから，完全に捧げています。神様は必要は必ず満たして下さいます。私は子供のときからの信者で，質素と倹約は守りますからいつでも困ることはありません。

朝夕のお祈りと食事の感謝も欠かしません。今年2月，とてもはなはだしい神経痛に苦しみましたが，神権者の兄弟から祝福していただいてまたたく間に癒されました。それ以後全く健康になりましたので感謝しております。神権の尊いことはよく知っておりましたが全く驚くほど早く完全に癒されました。長年の神経痛はそれ以来すっかり消失してしまいました。

正しい祈りは必ず応えられることを信じます。

この教会は唯一の真の教会であることを信じます。

イエス・キリストの御名により証申し上げます。アーメン。

私の証

自分を愛するように

横浜ワード
渡部正雄

2月27日，ステーキ部大会神権指導者会が第3ワード部で開かれ，1時間ほど早く着いた私は礼拝堂でモルモン経を読んでいました。すると菊地副ステーキ部長が入って来られ，リグランド・リチャーズ十二使徒がお会いしたいそうですから来て下さいと言われました。私は身のひきしまる思いで監督室に入って行きました。

リチャーズ長老は，ちょうどお父さんのようなやさしいまなざしで，あなたは祝福師に召されましたと言われました。がくぜんとした私は，おそるおそる果たして私にその価値がありましょうかとお尋ねしますと，長老はニーファイ第二書第3章の，リーハイがその子ヨセフに語った先祖ヨセフの予言を引用され，「ジョセフ・スミスは末日の予言者として主に召されたから主の導きと助けによってその務めを果たしたのです。あなたも主に召されたからには，主が守っておられるからできないことはないのです」と力強くさとされました。

不思議なことに，私はちょうど今しがた礼拝堂でこのところを読んだばかりでしたので，よくわかりました。すべてを主に任せて，私は感謝感激しながら，お召しに従ったのでした。

4月6日，ソルトレークの総大会の後，午後4時から，教会事務室の講堂で祝福師とステーキ部長の集会が開かれ，数名の新任祝福師は前列にすわらせられました。

十二使徒ベンソン長老が教義と聖約107章39章を引用されて，祝福師の重大な任務を強調され，この職を奉ずる者は神の人でなければならない。少なくとも最も神に近くあらねばならないと言われました。そのとき私の心に，あなたがたの天の父が完全であられるように，あなたがたも完全な者となりなさい，と言われた主の言葉が浮かんで来ました。そして主はさらに，求めよさらば与えられん，と呼びかけられました。私はただただ主に信頼し，全力を尽くして，この聖なる御業に献身しようと決心して帰って来ました。4月20日，夜を徹しての祈りと主のみたまの助けによって力づけられた私は，早朝，田中ステーキ部長に電話して，本日ただいまよりこの聖なる御業に奉仕させていただきますと申し上げました。田中兄弟は折り返しきょう祝福を受けたい人がいるのですかと聞かれ，一応，ステーキ部長会を通して発表しますからと言われ，私は喜んでお待ちすることにし，まず最初に申し込まれていました高等評議員の神崎兄弟姉妹に連絡しました。神崎兄弟が出張されていましたため，最初は4月28日の共立講堂での発表を目前にした石井由美姉妹，それに伝道に出られる岩田兄弟に私が祝福師に聖任されてからちょうど2カ月目の4月27日，東京ワード部において祝福させていただきました。儀式執行中，主のみたまに満たされて，私は私の手をおいた兄弟姉妹のためなら，自分の命を捧げてもよいと思う程の愛を感じました。無事に祝福を終えたときは，共に感謝感激の涙にむせぶばかりでした。翌28日のリサイタルは大成功裡に終了しました。石井姉妹は楽屋を訪ねた私に，演奏中ずっと兄弟のお声が耳に響いて力づけてくれましたと言われたとき，私はただただ主とはらからに感謝するばかりでした。

その後引き続いて神崎御夫妻を始め多くの兄弟姉妹に祝福させていただいておりますが，この聖職の尊さを身にしみて感じさせられております。

今度のソルトレークの祝福師の会に私が7年前にハワイで祝福を受けたヒュー祝福師が来ておられ，喜んで私のところへとんで来られましたが，この重責どうしたらよいでしょうかとまず尋ねた私に，「心配することはないですよ。ただ授ける人と共に祈り，その人を心から愛すればよいんですよ」と言われました。その言葉が今はっきりとわかり，主が言われた

「『心をつくし，精神をつくし，思いをつくして主なるあなたの神を愛せよ』これは一番大切な第一のいましめである。第二もこれと同様である。『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ』」の御言葉がやっとわかってきたような感激にひたっています。

そして私の命の続く限り，この聖職に奉仕させていただきたいと念願しております。

心からへりくだって皆様の御指導と御援助を仰ぐ次第であります。

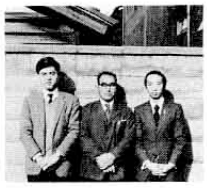
皆様の上に常に豊かな主の恵みと祝福がありますようにお祈り致しております。

いつも献身的に働いて下さる日本中央伝道部，地方部・支部の役員の皆様を御紹介いたします。

倉敷支部　住吉支部長

姫路支部　西川支部長

中国東地方部　新谷地方部長


金沢支部　青木支部長

小松支部　北野支部長

岡山支部　溝内支部長

明石支部　柳田支部長

北陸地方部　中村地方部長

福井支部　北村支部長

富山支部　鈴木支部長

松山支部　武知支部長

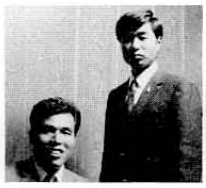
高松支部　重富支部長

四国地方部　内山地方部長

岐阜支部　古芝支部長

岡崎支部　富田支部長

高知支部　米村支部長

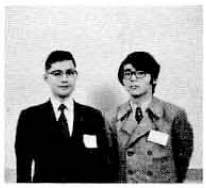

徳島支部　神崎支部長

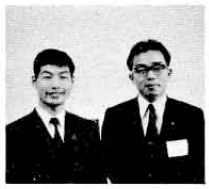
中部地方部　中村地方部長

名古屋第１支部　池田支部長

豊橋支部　林支部長

名古屋第２支部　土田支部長


名古屋第３支部　白木支部長

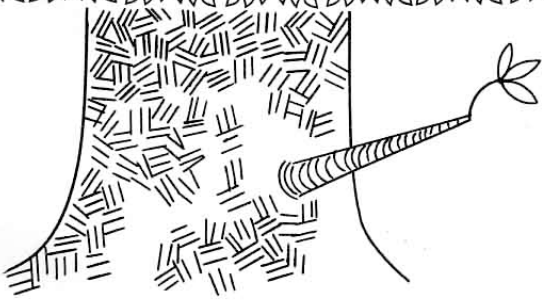

名古屋第４支部　川田支部長

津支部　小林支部長

名古屋第５支部　柴山支部長

名古屋第６支部　日坂支部長

ごらん、よく言っておく。私が一生の間お前たちのために務めたと言ったのは、これを自慢したいと思って言ったのではない。私が務めたのはただ神のために務めただけである。　モーサヤ２：16



新刊紹介

聖徒の道
昭和四十二年十二月十八日第三種郵便物認可
一九七三年三月二十日発行（毎月一回二十日発行）第十七巻第三号

教師養成プログラム

HT－19	教授監督	200

系　　図

GA－66	系図記録提出の手引き	100

アロン神権

DC－55	皆各々その義務を悟れ	300

扶助協会

SM－066	扶助協会テキスト　1973～4年用	200
SM－06	扶助協会レッスン計画	150

音　　楽

HM－039	指揮者手引き	200
HM－017	オルガニスト手引き	200
HM－33	子供の音楽のためのガイド・ブック	200

日曜学校

UE－62	やさしい天のお父さま　コース3	450
UE－66	主の教会の会員　コース7	450
UE－68	末日聖徒の歴史　コース9	450
UE－70	やさしい福音　コース11（教師用）	450
UE－71	やさしい福音　コース11（生徒用）	100
UE－73	奇しきみわざ教師用手引き	150
UE－80	主の教会の会員子供用教材	100
UE－83	末日聖徒の歴史子供用教材	100
UE－84	コース11　生徒用教材「神権の送電線」	50
UE－0048	コース3　子供用教材	50
UF－017	教義と聖約教師用手引き	150
UF－033	教義と聖約生徒用	100
UE－57	天のお父さま　コース4	600
UE－58	天のお父さま　コース4教材	300
PESS006JA	日曜学校の手引き	200
PESS005JA	子供日曜学校主任用ガイド・ブック	200

M　I　A

AD－001	MIA演劇基礎手引き	150
AF－229	MIAスピーチの手引き	150
AC－058	MIAダンスの手引き	150
	Mメング・リーナーテキスト	700

若い女性のプログラム

CF－50	真理の宝バインダーセット（封筒・用紙つき）	1100
CA－16	真理の宝バインダー用封筒	200
CF－83	真理の宝用紙Ⓐ（35枚つづり）	150
CF－618	真理の宝用紙Ⓑ（25枚つづり）	100
CA－12	若い女性のプログラム	150
PA－485	12才－はじめようとするあなた	120
PA－496	13才－成長するあなた	120
PA－509	14才－見い出すあなた	120
PA－510	15才－信じるあなた	120
PA－521	16才－希望にもえるあなた	120
PA－532	17才－達成するあなた	120
PA－543	18才－実現するあなた	120
CA－15	YWMIA 面接報告書	50
AJ－01	若人のために	50
JC 027	なぜ清くあるべきか	100
CA－50	少女を勇気づける	150
CA－51	ステーキ部YWMIA会長会のために	30
AA－514	1973～4年用MIAテーマ・カード（10枚）	50

マイアメイド

CF－52	「自分自身を知りなさい」	500
CF－58	教師用手引き	100

ビーハイブ

CG－7	「新しい約束」	600
CG－15	教師用手引き	300

プライマリー

DD－54	星クラス　コースB	550
DE－65	正義の子(CTR)　コースB	550
DE－68	かりゅうど　コースB	550
DH－050	開拓者　コースB	550
DF－97	明るい少女　コースB	550